

MHPSE-2019

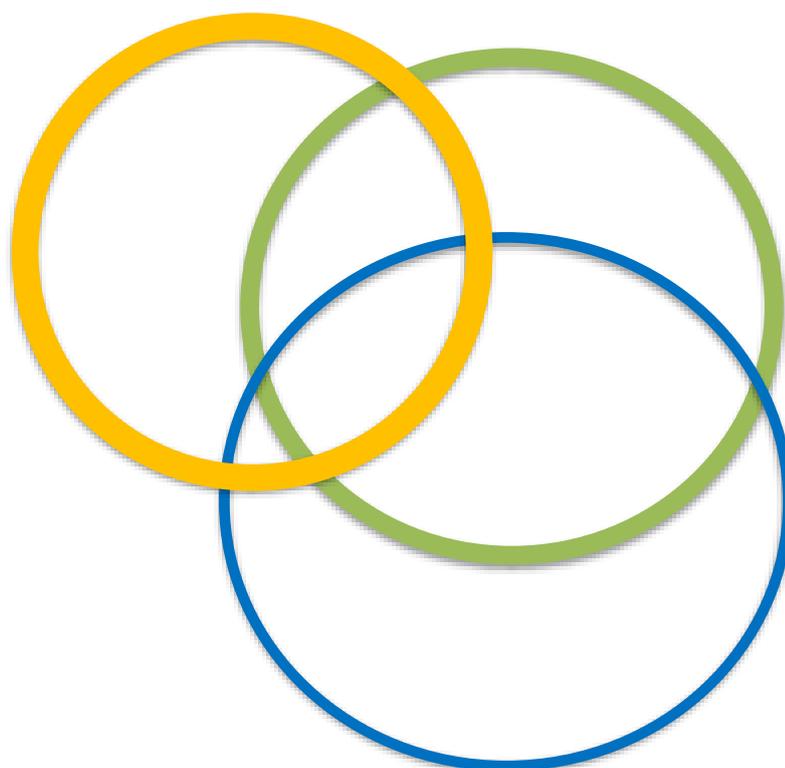


# 環境経営レポート

(Rev.2.2)

～環境活動の和・輪・環～

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日



## MHIパワーエンジニアリング



初版発行日 2020年7月10日

MHPSEエンジニアリング株式会社

環境に関連する登録・資格等

<建設業者登録>

- ・ 特定建設業（土木工事業、建築工事業、とび・土工、電気工事業、管工事業、鋼構造物工事業、機械器具設置工事業、水道施設工事業）国土交通大臣 許可（般-27）第 25931 号
- ・ 一般建設業（電気通信工事業）国土交通大臣 許可（般-27）第 25931 号

<建築士事務所登録>一級建築士神奈川県知事登録 第 16992 号

<労働者派遣事業>特 14-305924 号

<品質管理>ISO9001 ; 2015 認定

<環境経営>エコアクション 21 認定 (0000516)

- ・ 環境省「Fun to Share」登録
- ・ かながわ森林再生パートナー登録
- ・ かながわ SDGs パートナー登録
- ・ 東京商工会議所「エコ検定推進企業」登録
- ・ 法人会員：世界自然保護基金（WWF）

**MHPSエンジニアリング株式会社は、2020年9月1日、MHIパワーエンジニアリング株式会社に社名変更しました。本紙の表記は、2019年度レポートのため旧社名のMHPSエンジニアリング株式会社としてまとめられています。**

## << 目 次 >>

1. 会社概要	5
1.1 沿革（当社のあゆみ）	6
1.2 取扱製品と業務概要	7
2. 環境資源（2019年度）の循環とりまとめ表	9
3. 環境経営	10
3.1 社長メッセージ	10
3.2 環境経営方針	11
3.3 環境経営体制	12
3.4 エコアクション21登録概要	13
3.5 環境経営システム採用の変遷	13
3.6 エコアクション21の全社展開	14
3.7 中期計画（リスクとチャンス）	17
3.8 環境活動への展開	18
4. 環境活動	19
4.1 環境活動の履歴	19
4.2 エコアクション21外部審査	21
4.3 グループ企業内部監査	23
4.4 環境教育	24
4.5 社内広報	28
4.6 環境三要素の評価	29
4.7 グリーン調達	35
4.8 社内エコポイント活動	36
4.9 環境配慮型設計の取組	42
4.10 かながわSDGsパートナーへの参画	43
4.11 内部監査	43
5. 社会貢献活動	44
5.1 山下公園ボランティア清掃	44
5.2 ウオーク・ザ・ワールド2019（WFP）参加	44
5.3 横浜地区ボランティア清掃	44

5.4	長崎地区ボランティア清掃	45
5.5	高砂地区通勤路ボランティア清掃	46
5.6	呉地区ボランティア清掃	46
5.7	横浜地区エコキャップ収集活動	46
5.8	長崎地区エコキャップ収集活動	47
5.9	長崎地区プルタブ収集活動	47
6.	生物多様性に関する取組	48
6.1	WWF を通じた間接的貢献	48
6.2	山のグラウンドワーク森林整備ボランティア（呉地区）	48
6.3	やどりきの森（「森林のつどい」への参加）	49
6.4	高砂地区植樹活動	49
6.5	MHPS エンジニアリングの森	50
7.	環境活動と評価	51
7.1	2019 年度実行計画書	51
7.2	2020 年度実行計画書	52
7.3	2019 年度／2020 年度環境活動と SDGs の対応と評価	53
8.	環境関連法規制の遵守状況及び違反、訴訟等の有無、等	54
8.1	適用となる主な環境関連法規制等の遵守状況確認	54
8.2	外部からの環境に関する苦情等の受付結果	54
8.3	違反・訴訟等	54
8.4	緊急事態の想定とその内容	55
9.	代表者による全体評価と見直し結果	56



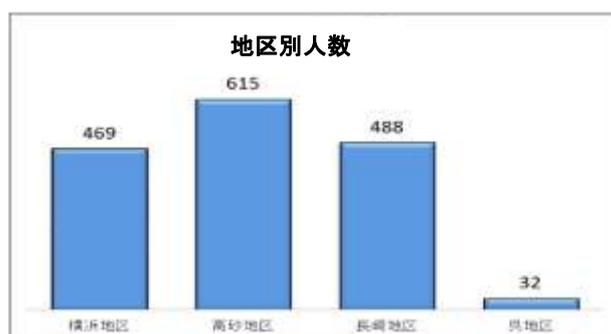
「MHPS エンジニアリングの森」看板

## 1. 会社概要

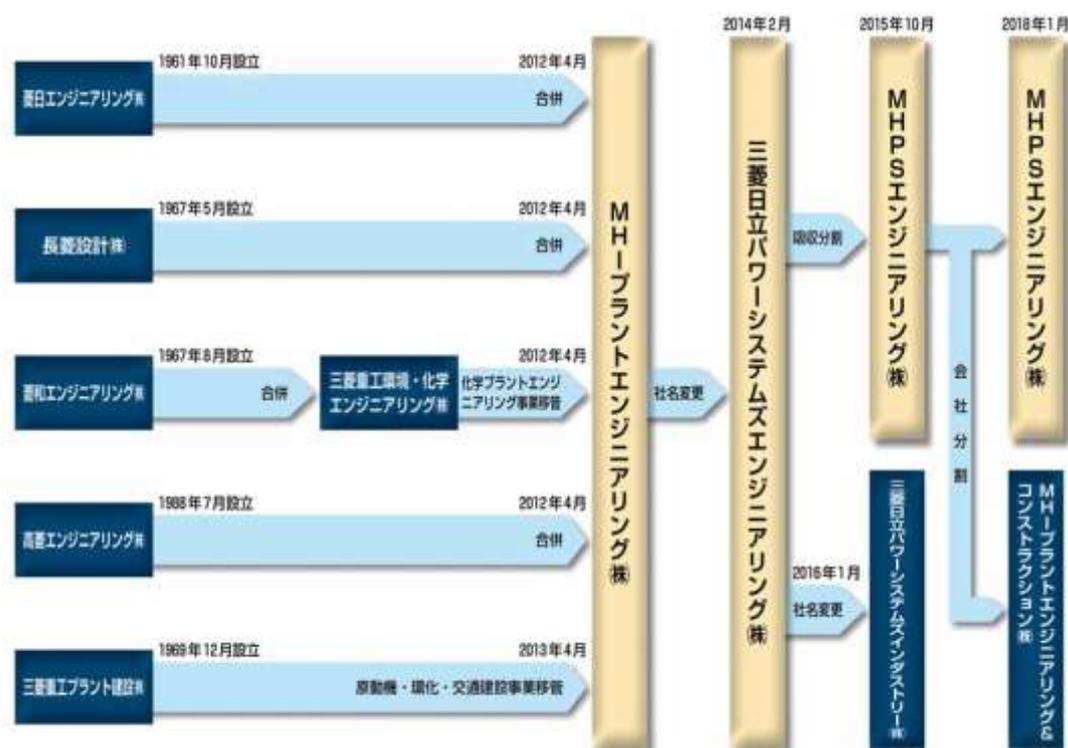
MHPSエンジニアリング株式会社は、『優れた技術・製品によって社会に貢献する』という三菱重工業及び三菱日立パワーシステムズグループの企業理念のもと、火力・水力・風力・原子力発電プラント、排煙脱硫・脱硝プラント、鉄構製品、環境プラント、ITシステムといった各製品の設計・エンジニアリング・現地工事・アフターサービスを提供する総合エンジニアリング会社であり、技術情報サービス業（一部建設業）に分類される企業です。

(2019年4月1日)

事業名称		MHPSエンジニアリング株式会社				
代表者		取締役社長 北 良之				
環境経営責任者		取締役副社長 郡司 登				
地区	サイト	住 所	人数 (人)		事務所面積 (㎡)	
所在地	横 浜	本 牧	神奈川県横浜市中区錦町12番地	302	469	2,995
		みなとみらい	神奈川県横浜西区みなとみらい3丁目3番1号	61		361
		YBA	神奈川県横浜西区みなとみらい4丁目4番2号	63		527
		日石横浜	神奈川県横浜市中区桜木町1丁目1番8号	43		232
	高 砂	—	兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目8番19号	615		5,350
	呉	—	広島県呉市宝町5番3号	32		208
	長 崎	飽の浦	長崎県長崎市飽の浦町1番1号	458	488	2,241
		旭 町	長崎県長崎市旭町6番1号	30		514
日立地区	(準備中)	茨城県日立市幸町3丁目1番1号	(23)		(77)	
社員数		1,604名（正社員1,250、協力社員354）				
年間売上高		約190億円（2018年度）				
工事件数		【建業法対象工事】横浜地区：26件、長崎地区：12件（2018年度実績）				
延べ床面積		12,428㎡				
業務内容		各種プラント、環境・鉄構製品、システムなどの総合エンジニアリング				



## 1.1 沿革（当社のあゆみ）



1961年10月	菱日重エンジニアリング株式会社設立。
1972年04月	菱日エンジニアリング株式会社に社名改称。
2012年04月	長菱設計(株)、高菱エンジニアリング株式会社を合併。 三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社の一部を分割承継。 社名をMHIプラントエンジニアリング株式会社と変更。
2013年04月	三菱重工プラント建設株式会社の一部を分割承継。
2014年02月	三菱重工工業株式会社と株式会社日立製作所の火力事業統合に伴って、社名を「三菱日立パワーシステムズエンジニアリング株式会社」に変更
2015年10月	「MHP Sエンジニアリング株式会社」として分離独立。
2018年01月	環境・化学プラント事業部をMHIプラントエンジニアリング&コンストラクション株式会社に分離。

MHP Sエンジニアリング株式会社は2020年9月1日、MHIパワーエンジニアリング株式会社に社名変更しました。（改訂1.2）2020/09/08



## 1.2 取扱製品と業務概要

### ①【発電プラント】

広大な敷地にある発電プラントの機器やプラントに至るまで当社の技術が活かされています。

#### ・ガスタービン

暮らしや産業の基盤となる電力を生み出す火力、コンバインドサイクル発電用ガスタービンの大型回転機械を設計担当

#### ・ボイラ

ボイラ及び付帯設備の基本計画・見積から設計・アフターサービスまでを担当。

#### ・蒸気タービン

蒸気タービン本体の開発・生産設計や制御・潤滑油装置、付帯配管などタービン廻りの制御・艀装関係の生産設計を実施。

#### ・プラント設計

原子力・火力・ガスタービン・コンバインド発電プラントの系統、配管、機器、計装電気、及び制御の設計担当。

※HRSG : Heat Recovery Steam Generator (排熱回収)



M501G ガスタービンロータ



HRSGボイラ



大型石炭火力用蒸気タービン



国内最大容量級コンバインド発電所

### ②【火力・原子力発電】

火力・原子力発電施設の各種ボイラ計画及び設計、脱硝装置の計画及び設計、プラントの監視システム、電気計装設計、配管計画、配置設計から保守、点検、アフターサービスまで多岐にわたり業務対応。



石炭火力発電所



コンバインドサイクル発電所

**③【新・再生エネルギー製品】**

風力発電の風況調査等コンサルタント及び発電設備の設計及び地熱発電装置の計画、設計を担当。



**④【機械・鉄構・環境プラント】**

・都市ごみ焼却施設、産業廃棄物処理施設、污泥焼却施設及びし尿処理施設の新設工事・アフターサービス・延命化工事の計画・引合い・取纏め・主機詳細設計まで設計対応。

・発電プラントの各種ポンプや、再生可能・クリーンエネルギーである水力発電向け水車の設計担当。

・熱交換器や回転機本体及び潤滑油の冷却に使用する装置、プラントの熱効率に影響する機器設計の担当。

・船舶に搭載する船用機械の計画・設計、高出力機のコンパクト設計。

・冷却塔は、企画から設計、建設工事、保守まで一貫した体制で製品提供。

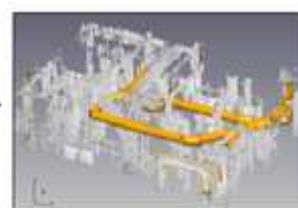
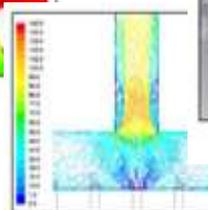
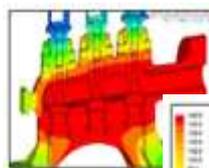
・VPSA 酸素発生装置

※VPSA : Vacuum Pressure Swing Adsorption

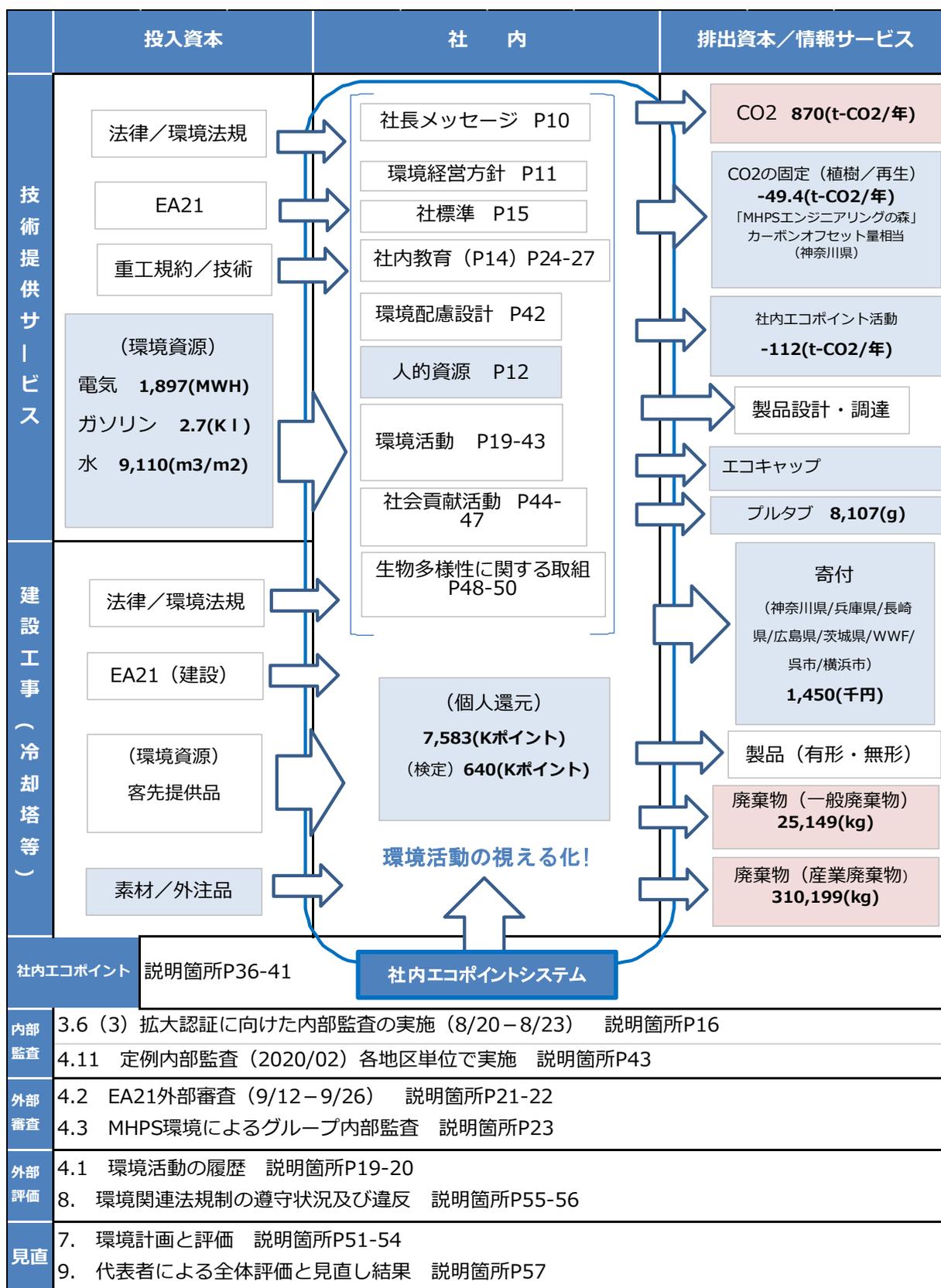


**⑤【各種システム・解析・計測】**

CAE など最新の技術を用いた各種製品開発。ICT 技術で設計、保守の効率化等を推進。



## 2. 環境資源（2019年度）の循環とりまとめ表



### 3. 環境経営

#### 3.1 社長メッセージ



～多彩な技術で持続的発展が可能な循環型社会の構築に向けて～

当社は、三菱重工業株式会社 (MHI) 及び三菱日立パワーシステムズ株式会社 (MHPS) グループのエンジニアリング会社として、その源流は 1961 年 10 月に遡り、50 年を超える歴史のなかで多数のエンジニアを輩出し、日本国内に限らず全世界に MHI / MHPS 製品技術を送り出し、社会に貢献してまいりました。

当社が関わる製品は、火力・水力・風力・原子力発電プラント、排煙脱硫・脱硝プラント、鉄構製品、環境プラント、航空・宇宙関連機器、IT システムに至るまで多岐にわたっており、得意とする設計ファンクションは、土木・建築、機器・機械、計装・電気、配置・配管、制御装置、コンピュータ解析など多種に跨がります。まさに「総合エンジニアリング会社」と自負するところです。

その中であって環境活動を経営の最重要課題のひとつとして位置付け、企業としての社会的責務を自覚し、事業活動のあらゆる面で環境への負荷低減に努め、地球規模での環境保全と持続的発展が可能な社会形成に貢献出来るよう活動に取り組んでおります。

具体的には三菱重工・環境 G p p<sup>\*</sup>の指針に全面的に協力すると共に、SDGs を見据えたサプライチェーン構築に向けた環境活動を軸として、今年度は社内にあった複数の環境経営システムをエコアクション 21 (環境省) 一本に統一すると共に「社内エコポイント制度」を全社に拡大します。

また、本業である環境配慮型設計に重点を置くと共に、グローバルな環境教育に取り組んでいきたいと考えており、当社製品の根幹であるエネルギーのあり方について各自で問題意識を持ち、また技術共有することによって今世紀の地球の抱える問題に正面から果敢にチャレンジし、地域社会と環境づくりに、技術者としての倫理を旨として貢献してまいり所存です。

MHPS エンジニアリング株式会社  
取締役社長 北 良之

\*三菱重工・環境 G p p : 2017 年 11 月 1 日付三菱重工で制定された環境に関する三菱重工グループ企業の活動規定。持続的発展が可能な社会構築に貢献するための環境負荷低減活動及び環境に関するコンプライアンスを規定しています。

## 3.2 環境経営方針

# 環境経営方針

## 1. 基本方針

MHIパワーエンジニアリング(株)は、環境保全を経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、企業としての社会的責務を自覚し、事業活動のあらゆる面で環境への負荷低減に努め、地球規模での環境保全と持続的発展が可能な社会形成に貢献する。

この基本方針達成のため、次の行動指針に基づき活動する。

## 2. 行動指針

- (1)環境に配慮した事業活動の継続的推進のために、環境マネジメントシステムを軸に環境目的・目標を設定し達成に向けて継続的改善を図る。
- (2)環境に関係する法規制、及びその他の要求事項を遵守して事業活動を行う。
- (3)省資源・省エネルギー・排出物の低減・汚染の予防に配慮した設計を実施し、環境負荷を軽減することのできる製品の供給を図る。
- (4)社員及びパートナー会社社員に環境経営方針を理解させ、環境意識を向上させるために環境教育、社内広報活動等を推進する。
- (5)この環境経営方針は、内外に公表するとともに一般の人が入手可能とする。

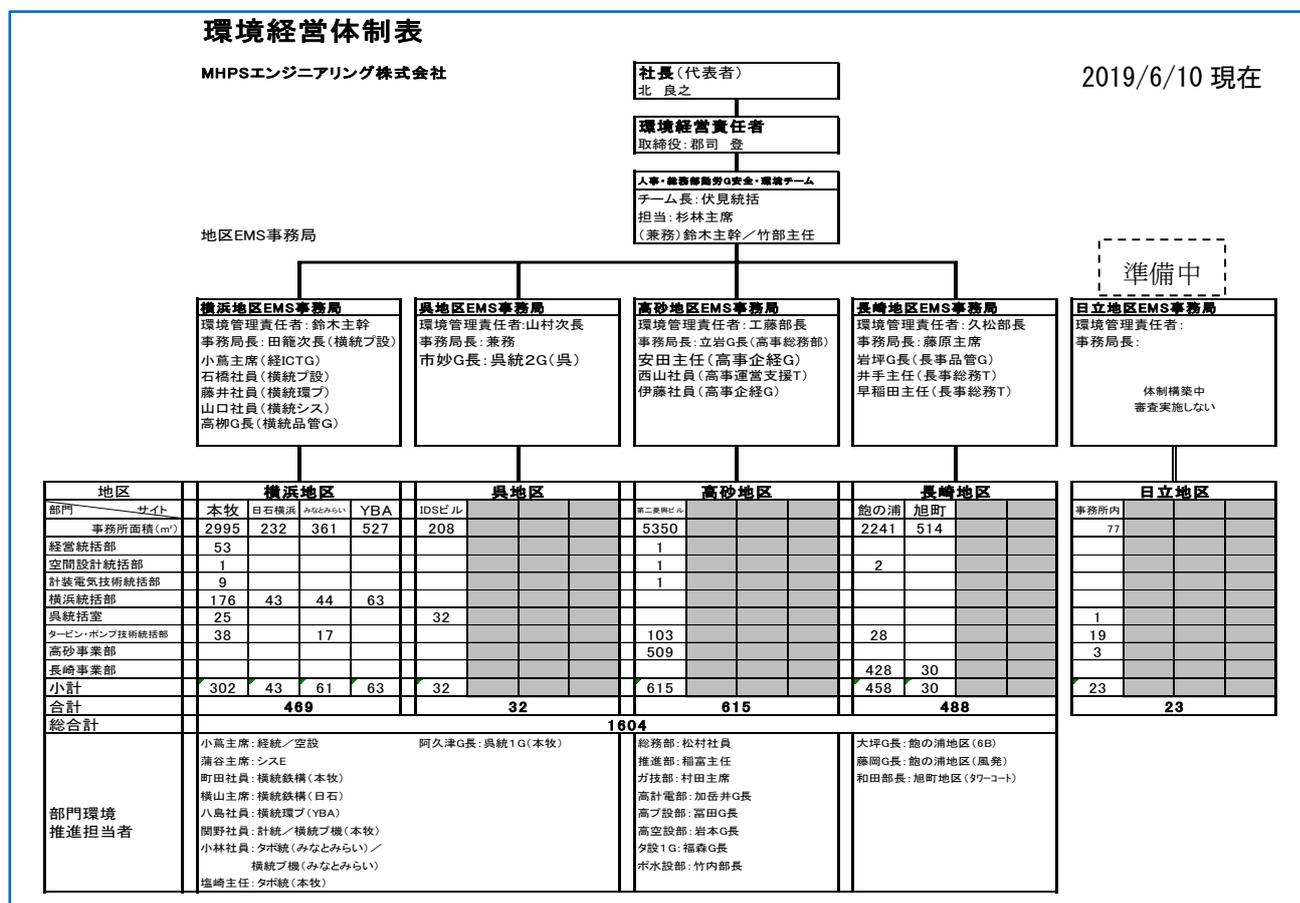
 MHIパワーエンジニアリング  
MHI Power Engineering

2020年9月1日 取締役社長 北 良之

(各職場に掲示)

### 3.3 環境経営体制

サプライチェーンの構築を目指して、環境経営体制の強化を図っています。



#### 環境経営システムに関する責任・権限

役 名	役 割
代表者	社 長
環境経営責任者	社の環境経営に関する最高責任者、環境方針の策定。 リスクとチャンスを検討した全体の評価と見直し及び指示
経営統括部 (社取り纏め)	社全般の環境経営に関する執行機関(渉外窓口、広報、とりまとめ) エコアクション21窓口業務、「EcoPS」管理業務、環境経営レポートの作成
地区環境管理責任者	各地区職制責任者と連携して環境に関する管理責任を担当する。各地区 EMS 事務局の指導・監査役。各地区職制責任者から任命。
地区事務局長	地区事務局の運営管理の執行責任者
地区 EMS 事務局	担当地区環境全般についての執行機関 ・ 本社(安全・環境T)と担当地区の情報交流拠点 ・ 担当地区の環境活動の計画/実施/フォロー等全般の執行 ・ 担当地区の渉外・広報・管轄部門との円滑な運営
部門環境推進担当者	地区 EMS 事務局の指示により担当部門の環境活動を推進する担当者(まとめ役)

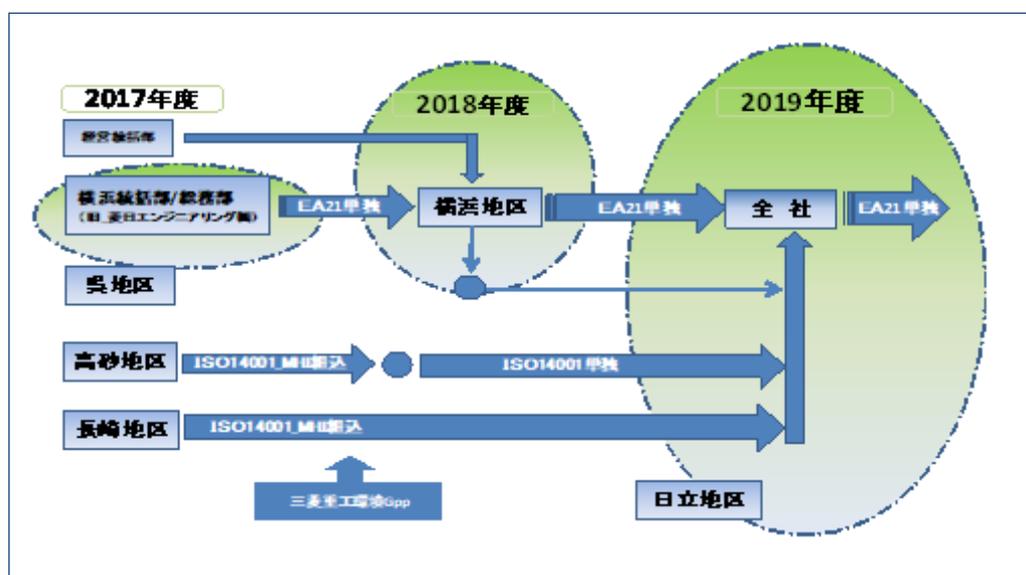


### 3.4 エコアクション21 登録概要

当社は、環境経営システムとして環境省「エコアクション21（EA21）」を採用しています。

認証登録事業所	MHPSエンジニアリング株式会社
認証・登録の対象活動範囲	各種製品（原動機、鉄構、環境装置、システム、その他）の設計・調達・技術情報サービスの提供及び一部製品の据付建設工事
認証登録番号	0000516
初回認証登録日	2005年10月31日
更新登録日	2019年10月31日（全社認証）
審査窓口	エコアクション21地域事務局かながわ
審査人	杉浦 勲（2017年度／2018年度／2019年度／2020年度）
社担当窓口	杉林正教（経営統括部 人事・総務部 安全・環境G）2020年4月1日

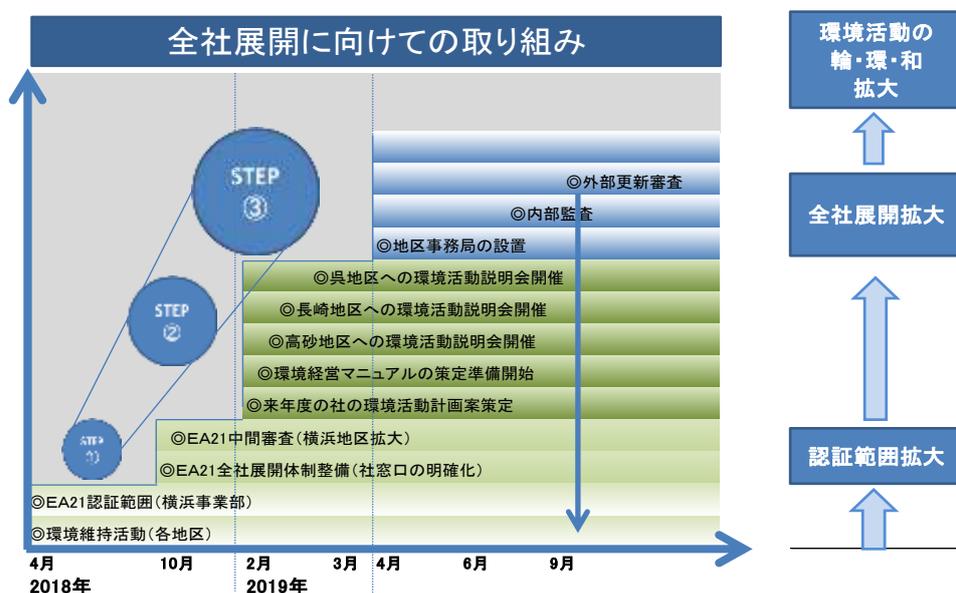
### 3.5 環境経営システム採用の変遷



2019年度においては、各拠点地区（高砂地区／呉地区／長崎地区）を組み入れて、全社へ認証を拡大することができました。日立地区は準備段階であり、組織移行完了時点の年度をもって登録します。

三菱重工環境 Gpp：2017年11月三菱重工発出の環境グローバルポリシー&プロシジャー

### 3.6 エコアクション21の全社展開



#### (1) エコアクション21 説明会（社内教育）の実施

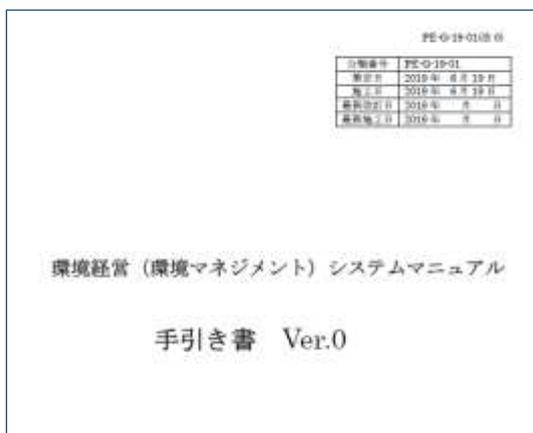
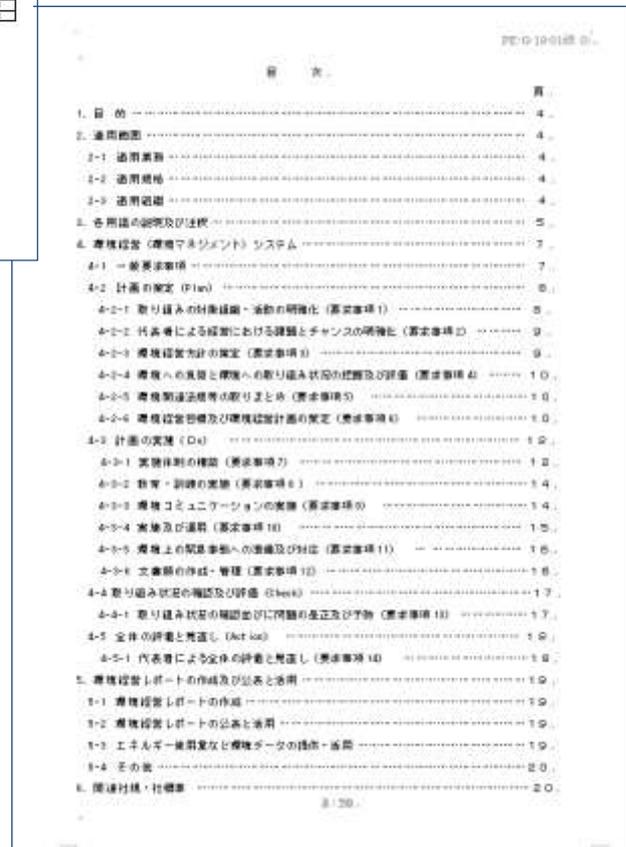
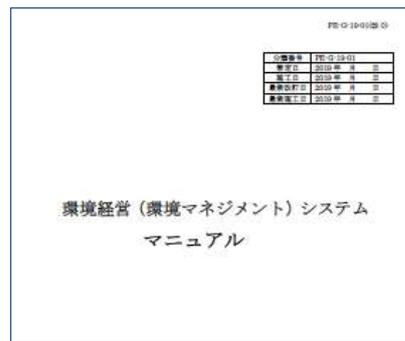
活動状況フォローとエコアクション21の活動内容について各地区説明会を行いました。

- ・ 呉地区 5月17日（金）  
出席者：環境経営責任者/安環 T（2名）/呉地区 EMS 事務局（3名）/横浜地区 EMS 事務局（2名）
- ・ 高砂地区 5月22日（水）  
出席者：環境経営責任者/安環 T（2名）/高砂地区 EMS 事務局（5名）/横浜地区 EMS 事務局（2名）
- ・ 長崎地区 5月24日（金）  
出席者：環境経営責任者/安環 T（2名）/長崎地区 EMS 事務局（6名）/横浜地区 EMS 事務局（2名）
- ・ 高砂地区 7月26日（金） 出席者：安環 T（2名）/高砂地区 EMS 事務局（4名）
- ・ 長崎地区 7月31日（水） 出席者：安環 T（2名）/長崎地区 EMS 事務局（5名）



## (2) 環境経営に関する社標準の制定

6月20日付けで環境に関する全社標準（環境経営マニュアル及び手引書）をリリースしました。環境に関する各事業部単位の標準を廃棄して環境経営に関する社標準を1本に纏めると共に、変更の多い規約・基準は手引書として別枠で纏めることにより、変更・運用が簡易に行える機動力のあるかたちで制定しました。（監修：鈴木慎悟）



No.	タイトル	版	制定日	最新改訂日	最新発行日	秘密区分	閲覧権限	更新権限	最終更新日
11	環境経営（環境マネジメント）システムマニュアル	0	2019/10/07	2019/10/07	2019/10/07		MHPSエンジニアリング 小村 寛		2020/05/15
12	社標準 PE-G-14-17 廃棄品処理管理規程	1	2013/01/01	2019/11/21	2019/11/21		MHPSエンジニアリング 社 田中 浩一		2020/05/15
13	社標準 PE-G-14-18 廃棄物の分別収集・処理	3	2013/08/22	2016/12/28	2016/12/28	秘	MHPSエンジニアリング 社 田中 浩一		2020/06/19
14	社標準 PE-G-15-01 電子メール利用規程	4	2013/08/22	2018/06/29	2018/06/29	秘	MHPSエンジニアリング 社 田中 浩一		2020/06/19
15	社標準 PE-G-16-01 社務用印の管理及び使用	0	2019/07/26		2019/07/26		MHPSエンジニアリング 高津 健 3001G 小村 寛		2020/06/19
16	社標準 PE-G-18-01 海外拠点業務規程	6	2013/04/16	2019/09/27	2019/10/01		MHPSエンジニアリング 社 田中 浩一		2020/04/09
17	社標準 PE-G-18-02 ネットワーク管理規程	7	2013/04/16	2018/03/07	2018/03/07		MHPSエンジニアリング 社 田中 浩一		2020/05/18
18	社標準 PE-G-18-04 設備管理規程	3	2013/04/25	2018/07/20	2018/07/20		MHPSエンジニアリング 社 田中 浩一		2020/05/25
19	社標準 PE-G-19-01 環境経営の環境マネジメント	0	2019/06/19	2019/06/19	2019/06/19		MHPSエンジニアリング 環境部 高津 健		2020/04/27

社ポータルサイトのリスト内容

### (3) 拡大認証に向けた内部監査の実施

導入初年度となる高砂地区／呉地区／長崎地区は、エコアクション21のガイドラインを踏まえた内部監査及び勉強会を実施しました。（監査：郡司登／鈴木慎悟／杉林正教）

<次第>

1. 郡司取締役講話
2. SDGsに関して（担当：鈴木慎悟／杉林正教）
  - (1) 概要について（動画：15min）
  - (2) SDGsNo7～No12の説明（動画：2min×6=12min）
3. 内部監査

#### ① 高砂地区 8月20日（火）



**【監査人】**

環境経営責任者、安環T（2名）、高砂事務局（1名）

**【被監査人】**

高砂地区事務局（5名）及び部門環境推進担当者（8名）

**【評価コメント】**

- ・植樹募金の実施を含め環境に対するモチベーションは高いので、下期スタートのエコポイントの申請率アップに期待する
- ・環境配慮型設計への取組の再認識と教育体系の確立

#### ② 呉地区 8月21日（水）



**【監査人】**

環境経営責任者、横浜地区 EMS 事務局（2名）

**【被監査人】**

呉地区管理者（5名）

**【評価コメント】**

- ・エコ検定への取組要望
- ・環境法規チェック表の確認
- ・環境配慮型設計への取組の再認識と教育体系の確立

#### ③ 長崎地区 8月23日（金）



**【監査人】**

環境経営責任者、安環T（1名）、横浜地区 EMS 事務局（1名）

**【被監査人】**

長崎地区 EMS 事務局（5名）及び部門環境推進担当者（3名）

**【指摘評価】**

- ・電気使用量の再確認
- ・実施体制表の全員周知
- ・環境配慮型設計への取組の再認識と教育体系の確立

### 3.7 中期計画（リスクとチャンス）

2019年度は、新中期計画の初年度となる。エコアクション21の全社展開の実現と併せて以下中期計画を策定しました。

あるべき姿：環境にやさしい安定的エネルギー供給が可能となる技術情報サービスの提供

内部環境	(自社の強み)	(自社の弱み)
	S-1：専門技術者が豊富	W-1：営業／広報人材の不足
	S-2：環境システムの全社統一	W-2：「待ち」の姿勢
	S-3：固定資産を持たない	W-3：高齢化
		W-4：外部とのコネクション不足
外部環境	(チャンス)	(リスク)
	O-1：MHI／MHP Sのグループ会社	T-1：MHI／MHP Sのグループ会社
	O-2：SDGs／EMS	T-2：火力発電製品の廃絶気運
	O-3：気候変動の顕在	



中期目標（2022年）

- ① 環境が主体となる営業／広報につながるサプライチェーンの構築
- ② エネルギー創生に必要な技術・製品情報（環境配慮型設計）の提供

項目	中期目標
E A 2 1 活動範囲（全社拡大）	各地区との情報共有化を図り、環境コミュニケーションの輪の拡大を推進する。 協会会社を含めた当社サプライチェーンの在り方について検討する。
環境負荷	全地区、環境活動は永年続けており、具体的数値においては飽和点に近い。 具体的活動内容を計画に織り込み、活動評価すること。 >>> 現状維持
グリーン調達	J-POINTの活用推進を図り、調達率向上を図る。 >>> 調達率100% 環境配慮型設計を考慮したサプライチェーンの最適化。 >>> 製品毎検討
環境配慮型設計	各製品担当部門にて目標を掲げ実施する。 >>> 目標の100%達成
エコ検定合格人数	各地区事務局及び各サイトの環境推進担当者が中心となり、環境活動の重要性を 学ぶよう受験者数のフォローを実施する。 >>> 200人
社内エコポイント活動	活動に対するCO2の算出を根拠と実例をもって確立する。
環境活動の教育推進	部門推進担当者向けに勉強会の実施や全社員向けにeラーニングを行い、更なる 環境知識を広める。

（単年度目標は、各地区・部門計画表に記載・フォロー）



### 3.8 環境活動への展開

分類	対象項目	目標項目	取組分野	取組内容
環境経営 (EA21) 全社適用	社内統一の環境経営システム 協力会社を含めた当社サプライチェーンの環境経営の検討と適用			
	社標準（手引書）の拡充			
環境負荷の削減	CO2 排出量の削減	電力使用量の削減	照明管理	昼休の消灯徹底 未使用スペースの消灯
			空調管理	エアコンの規定温度設定 扇風機の活用
		化石燃料使用量の削減	エコドライブ	10 項目の励行
			省エネ車利用	買替時の車種検討
	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	紙使用量	裏紙使用 出力抑制 (電子機器利用推進)
			分別徹底	用途別の分別
		産業廃棄物排出量の削減	リサイクル推進	分別の徹底
			最終廃棄物削減 マニフェスト管理	リユース、リサイクル化 管理の徹底
		建設副産物リサイクル率の向上	分別保管	分別保管の徹底
			リサイクル推進	繰返利用、他場所（箇所）での利用
	水使用量の削減			節水、「節水」の表示
	化学物質管理の徹底	PRTR 対策	代替製品情報の収集	代替製品の採用検討
使用量の把握			適正な購入、運用	
グリーン調達	J-POINT の活用推進	事務用品	対象製品	エコマーク製品の購入 リユース
環境活動の教育推進	部門毎の教育機会向上		コミュニケーション	教育ツールの提供 環境月間（6 月）の活用
	エコ検定受験	知識習得の指標として		試験情報の配信
気候変動アクション	環境配慮型設計	各製品担当部門にて年度毎に目標を掲げ、率先活動推進		
	社内エコポイント活動の推進	利用者拡大	コミュニケーション	広報の充実
			インフラ	機能向上
CO2 の回収		森林	保全、再生協力活動	

## 4. 環境活動

### 4.1 環境活動の履歴



(横浜地区)

#### 2004年11月～2012年3月：菱日エンジニアリング株式会社

- 2004年11月 「エコアクション21」社内事務局を設置
- 2005年10月 「エコアクション21」認証登録（認証・登録番号 0000516）
- 2009年03月 環境省「環境コミュニケーション大賞」環境レポート部門 優秀賞を受賞
- 2009年04月 横浜型地域貢献企業認定で最上位認定取得
- 2009年04月 横浜市 150万本植樹行動市長表彰 受賞
- 2010年06月 社内エコポイント活動開始
- 2010年07月 「チャレンジ25」に登録
- 2010年10月 環境活動促進システム運用開始  
環境活動促進システム特許出願（特許登録 5331063号）
- 2011年06月 環境省「マイボトル・マイカップキャンペーン」に参画
- 2011年07月 横浜マリンタワーエコキャップ活動展示に協賛
- 2012年03月 平成23年度「かながわ地球環境賞」受賞

#### 2012年4月～2014年1月：MHIプラントエンジニアリング株式会社

#### 2014年2月～2015年9月：三菱日立パワーシステムズエンジニアリング株式会社

- 2014年08月 環境省「Fun to Share」に参画



#### 2015年10月～現在：MHPSEエンジニアリング株式会社

- 2015年10月 「エコアクション21」10周年表彰 記念式典出席
- 2016年03月 WWF ジャパン法人会員登録



2016年12月 「低炭素杯2017」優良賞受賞



2017年11月 三菱重工にて環境Gpp制定

2018年3月 「環境人づくり企業大賞」奨励賞受賞



2018年10月 経営統括部品質安全推進室で環境経営を統括

2018年10月 「エコアクション21」全社展開の準備開始

2018年11月 「エコアクション21」認証範囲を拡充「横浜地区」

2018年12月 「兵庫県くすのき賞」受賞（高砂地区）



2019年4月 経営統括部に安全・環境チームを設置

2019年7月 植樹活動に対して「高砂市頌志賞」受賞（高砂地区）



2019年7月 神奈川県知事より「森林再生パートナー」寄付・支援に対して感謝状



黒岩知事より感謝状  
（左：黒岩知事、右：北社長）  
神奈川県庁・本館知事室にて

2019年10月 「エコアクション21」全社認証拡大登録

2020年4月 安全・環境チームをグループに改編

2020年4月 「かながわSDGsパートナー」登録



## 4.2 エコアクション21 外部審査

- (1) 審査期間：2019年9月12日—26日（更新審査）（担当：杉林正教）  
 杉浦勲審査人様／郡司登／鈴木慎悟／各地区管理者及びEMS事務局

### 横浜地区



審査開始前全体会議  
 高砂地区／呉地区／長崎地区とはテレビ会議を結んで全社情報共有を図りました。

全体／横浜地区：2019.09.12、09.13/09.26  
 12日に全体審査。横浜地区はサイト毎に4か所の審査を行い、冷却塔工事の審査を併せて2日工程となりました。

### 高砂地区



高砂地区審査及び事務所ヒアリングの様子

2019.09.18  
 計画書の実施状況の確認を中心にヒアリングが行われました。

### 呉地区



呉地区審査及び事務局ヒアリングの様子

2019.09.24  
 目標の記載が明確であり高評価を得ました。

### 長崎地区



長崎地区審査及び事務所ヒアリングの様子

2019.09.19-09.20  
 飽の浦／旭町の2サイトについて夫々審査を実施しました。

## (2) 審査結果

## ① 総合コメント（抜粋）

(2) 総合コメント	
	<p>・貴社はエコアクション21環境経営システムを2005年10月に認証・登録以来14年間にわたり、真摯に、また積極的に環境改善に向けて取り組んできました。この結果環境経営マネジメントシステムが有効に機能し、環境改善が図られていることを書類審査及び現地審査で確認しました。従って「ガイドラインに適合」の総合判定に至りました。</p> <p>今期より、従来の横浜地区に加えて高砂地区、呉地区、長崎地区に拡大し、全社でエコアクション21に取り組むことを決断されました。このご英断は称賛されると共に環境経営責任者自らが拡大事業所を訪問され、取組の拡大を推進されたことに敬意を払いたと思います。</p> <p>今後、新たな拡大組織を含めて、活動が益々活性化されることにより、エコアクション21のシステムが貴社の環境経営向上に寄与することを期待します。</p> <p>・審査の結果は以下のとおりです。</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境活動をSDGsと連携し、SDGsを見据えた活動として取り組んでいる点は評価されます。</li> <li>・「神奈川県森林パートナー」登録、「兵庫県くすのき賞」受賞など、自然環境保全に積極的に取り組んでいる点は評価されます。</li> <li>・環境活動の主要な柱である「社内エコポイント制度」をシステムの改良を図りながら、全組織に拡大している点は評価されます。</li> <li>・エコポイント活動を中心としたエコアクション21の導入ツールソフトを開発され、商品化に向けて取組まれている点は評価されると共に、今後の運用拡大が期待されます。</li> <li>・各事業所において、内部監査の指摘事項を忠実に受け止めて改善を図り、その結果を是正報告書にまとめている点は評価できます。</li> <li>・E A 2 1事務局において、対象組織拡大に向けて、精力的に取り組み、進捗を図ったことは評価されます。</li> </ul>

## ② 指導項目（抜粋）

A-1	<p>・各事業所における環境施策の実施責任者はほとんど全ての取組項目においてE A 2 1推進者が担っていますが、担当者を配分し、より多くの人に関わりを持った取組となるように推進することを推奨します。</p>
A-2	<p>・取組の確認評価にあたっては期間終了時点で達成を確実にするために自らが設定した途中段階での目標を設定し、確認しながら取組む必要があります。「環境活動計画及びフォロー表」を利用し、実施することを推奨します。</p>
B-1	<p>・環境目標を達成するための手段である、環境活動計画が各事業所で作成している「環境活動計画及びフォロー表」において不明確です。環境活動計画を明確に策定し、従業員が分かり易い取組となるように推進してください。</p>

### 4.3 グループ企業内部監査



日時：2019年9月30日（月）

出席者：三菱日立パワーシステムズ株式会社安全環境管理部安全環境管理 G 斎藤 G 長

MHPS エンジニアリング株式会社人事・総務部 総務 G 安全・環境チーム 伏見 T 長

同 杉林 主席

2019年10月8日

MHPS エンジニアリング(株)  
経営統括部 人事・総務部 総務部長 殿

MHPS グループ会社  
内部環境監査

#### 2019年度内部環境監査報告の件

内部環境監査結果を下記のとおりご報告します。

（評価レベル「環境コンプライアンス違反事例」は、社標準 000-19-43、8 章の規定に基づき対応のこと）  
（評価レベル「要修正事項・改善提案」は、「修正・改善報告書」により報告のこと）

組織名		MHPS エンジニアリング株式会社	
監査実施日時		書類監査：2019年9月30日(月)	
出席者	経営統括部 人事・総務部 勤務グループ 安全・環境チーム 杉林 主席 伏見主任 T 総務	監査チーム	リーダー監査員：W 28 斎藤
監査総括	MHPS HSE19-19 内部監査実施要領に基づき、監査チェックシートにより環境管理状況を確認させていただきました。 書類審査において、環境法令管理および環境活動がエコアクション21により、適用及び管理されていることを確認しました。2018年度は、エコアクション21活動の全社展開、環境経営レポートの作成、貴社独自のエコポイント制度を通じた環境活動「見える化」、神奈川県「森林保全パートナー」登録等、より高い次元での環境活動が実施されていました。 引き続き、MH 環境 GPP を踏まえた、環境コンプライアンスの遵守及び環境負荷低減に努めていただきますようお願いいたします。		
監査結果			
評価レベル	基準・要求事項	内容	
環境コンプライアンス違反事例 ・ 要修正事項 ・ 改善提案 ・ 良好事例	4. 組織の状況、独自の取り組み	(事象) エコアクション21活動を横浜地区の活動から全社へ展開され、環境経営レポートの作成、貴社独自のエコポイント制度を通じた環境活動「見える化」、さらに神奈川県「森林保全パートナー」登録等、より高い次元での環境活動が実施されていました。 (根拠) ・環境経営レポート ・2018年度社内エコポイント要領報告書 ・環境経営（環境マネージャート）システムマニュアル	
環境コンプライアンス違反事例 ・ 要修正事項 ・ 改善提案 ・ 良好事例		(事象) (根拠)	
・「環境コンプライアンス違反事例」は、社標準 000-19-43、8 章の規定に基づき対応を行う。 ・「要修正事項」は修正期限を定めて修正処置を行う。 ・「改善提案」は被監査組織が対応を決定（対応処置結果は記録する） ・「良好事例」は必要に応じて関係部門に連絡する。		環境監査責任者	監査リーダー

## 4.4 環境教育



当社は、技術情報サービスが中心業務であり、社員が案件を抱えて個々に業務対応するケースが多い。個々人のスキルが直接その製品に及ぼす影響は大きく、その中でも「環境」に関するリアルな情報をアナウンスすることは大変重要な課題となります。



教育資料の一部

### 4.4.1 事務局内教育

事務局内は、MHP Sの方針のもと三菱重工環境G p pの指針をベースとして独自の展開を加えながら進めることとしており、2019年度に入って「SDGs」「ESG」中心に積極的な教育と講習を行っています。今年度は「環境活動促進システム（社内エコポイントシステム）」の全社運用、森林保全パートナーへの登録を実施しました。これに関わる教育を積極的に推進しました。

### 4.4.2 新入社員向け教育

「SDGs」「ESG」などと当社の企業活動としての体系的な解説を中心に教育しています。

<研修内容>

「環境」とは／「環境経営」とは／MHIの環境への取組状況／活動計画とフォロー／環境経営レポートについて／環境活動体制について／等

#### 4.4.3 地区別講習

全社展開に向けた説明会では、E A 2 1の説明だけではなく、環境経営システム全般及び環境省の動画を活用して講習形式で実施しています。

また、8月の内部監査に際して、郡司取締役の講話及び「SDGs」に関する勉強会を実施しました。横浜地区については8月9日（金）に各部推進担当者対象に勉強会を実施しています。

地区毎に独自資料により講習を開催しました。

#### 4.4.4 eラーニング

毎年、環境月間である6月に実施しています。（担当：安全・環境T）

##### （その1）全地区全社員対象 6月5日（月）～6月17日（月）

The screenshot displays the '2019年度 環境eラーニング' (2019 Environmental e-Learning) page on the MHPs Engineering Portal. The interface includes a navigation menu on the left with categories like '安全衛生環境情報' (Safety, Health, Environment Information), 'CSR・コンプライアンス・情報セキュリティ' (CSR, Compliance, Information Security), and '社内報 すぽっとらいと' (Intranet). The main content area shows a question (問題) regarding ISO 14001 and EA21, a correct answer (正解) of 20°C, and a detailed explanation (解説) about global warming and the Paris Agreement. A table in the top right corner shows the results for the selected question: 1 question, 20 correct answers, and a score of 100.

設問、解説画面

##### （その1／結果）

対象者 1,480名 受講者 1,480名 受講率 100%

80点以上で合格。再試験可として合格に要した受験回数 平均 1.57回

**(その2) 全地区マネジメント層対象 6月24日(月)～7月31日**



学習資料の一部

**(その2 / 結果)**

対象者 (主席以上) 287名 合格者 279名 合格率 97%

平均学習時間 42分 合格者平均点 93点

**4.4.5 外部検定(エコ検定)の活用**

推進担当：鈴木慎悟

環境社会(エコ)検定の受験、取得状況

地区別	2020年合格者	のべ人数	備考
横浜	9	68	環境社会(エコ)検定試験 教育成果の実績評価として活用
高砂	3	3	
呉	1	1	
長崎	11	11	
夕波	3	3	
社長室	1	1	
知生	2	3	
合計	30	90	内：エコ検 SEEKER2名

東京商工会議所内のエコ検定推進企業に弊社が登録されました。

<https://www.kentei.org/eco/suishin.html>

#### 4.4.6 外部講習及びイベント等への参加

(1) ISO14001 内部監査員講習 (日本規格協会)

6月25日(火)～26日(水): 郡司登

(2) EA21 神奈川事務局主催 「フォローアップ対策研修&記念式典・交流懇親会」

9月4日(水): 郡司登

(3) WWF 主催 「スポーツとSDGs シンポジウム」 9月11日(水): 杉林正教



講演 (WWF 小西氏)

(4) 「エコプロ2019」 12月6日(金)



会場の様子

◎日中韓3カ国の環境産業技術フォーラム 海外環境協力センター主催  
於: 会議棟 : 杉林正教

(5) 「脱炭素チャレンジカップ」 2月19日(水) オーディエンス審査員

: 杉林正教



開会挨拶 (小宮山氏)

## 4.5 社内広報

全社で利用可能な社内ポータルに「EA21」の項目を作成して情報共有を図っています。社員はいつでも閲覧することが可能です。

また、地区毎の個別活動については、独自のサイトを立ち上げています。

(担当：小蔦嗣晴)

(当社・社内ポータルの Top 画面)



(社内報の記載記事より)

### 環境社会検定 (eco 検定) を推進します！

環境に関する活動は、環境負荷を如何に低減するかが課題となります。また、その継続性と自浄作用が重要なファクターであり、それを実現するには、各社員の研修、教育が重要になります。現在、環境に関する教育は、事務局内教育/各部門担当者教育/新入社員教育が主なものであり、これに組み合わせて実施しているのが「環境eラーニング」と「環境社会検定 (エコ検定)」です。昨年、会社の一つのプレゼンテーションとしてエコ検定を取得している企業が増加していますが、当社におきましても積極的に推進しており、この度、同検定を運営する東京商工会議所のホームページに掲載されることとなりましたのでご紹介します。

<https://www.kentel.org/eco/suishin.html>  
(エコアクション21 事務局)

## 4.6 環境三要素の評価

### 4.6.1 取りまとめ表

項目			2019年度 (2019年4月から2020年3月)				
			量	料金 (円)	CO2排出量 (kg-CO2)	割合	環境負荷の要因となる主な活動・設備等 (具体的に)
エネルギー 使用量 3.6.1 エネル ギー使用量	電力1	東京電力	687,393.00	kWh	326,511.68	37.5%	蛍光灯の間引き、昼休み消灯、離席時消灯、等
	電力2	関西電力	819,985.00	kWh	356,693.48	41.0%	
	電力3	九州電力	345,930.10	kWh	151,517.38	17.4%	
	電力4	中国電力	43,323.60	kWh	28,983.49	3.3%	
	電力5			kWh			
	ガソリン		2,714.86	L	6,298.48	0.7%	エコドライブ、電気自動車/ハイブリッド車運用勧奨、等
	軽油			L			
	灯油			L			
	A重油			L			
	都市ガス			m3			
	液化石油ガス (LPG)			kg			
	液化天然ガス (LNG)			kg			
	合計 (エネルギー)					870,004.50	100.0%
	一般廃棄物総排出量 3.6.3 一般廃棄物排出量等		25,148.73	kg			社内資料の裏紙利用、文房具の回収・再利用、両面印刷の勧奨、エコ製品の優先購入勧奨、等
	産業廃棄物総排出量 3.6.3 産業廃棄物排出量等		310,198.00	kg			個別の削減対策
中間処理量			kg				
うち再資源化量			kg				
最終処分 (埋立) 量			kg				
産業廃棄物 (特別管理) 総排出量			kg				
中間処理量			kg				
うち再資源化量			kg				
最終処分 (埋立) 量			kg				
水使用量 6.3.2 水使用 量	上水	9,110.11	m3			節水、マイボトル、マイカップ、等	
	工業用水		m3				
	地下水		m3				
化学物質 使用量	総量が少なく、報告対象外						

詳細、以下次葉

#### 4.6.2 エネルギー使用量（高砂地区以下今年度より実施）

##### (1) 電力 (MWh/年)

( ) : 二酸化炭素排出量 (t-CO<sub>2</sub>/年)

地区	サイト	2018年度			2019年度				2020年度	2021年度
		計画	実績	評価	計画	実績	実績率	評価	計画 (以下)	計画 (以下)
横浜	本牧	393.229	612.105	×	631.9	613.901	98.7%	○	631.9	631.9
	MM	24.211	15.430	○	22.5	14.745	65.3%	○	22.5	22.5
	横浜日石	26.748	24.193	○	26.7	24.719	92.4%	○	26.7	26.7
	YBA	37.400	35.019	○	37.4	34.027	91.0%	○	37.4	37.4
	計	481.588 (228.754)	686.747 (326.205)	×	718.5 (341.2)	687.393 (326.511)	95.7%	○	718.5	718.5
高砂	—	—	—	842.8 (366.6)	819.985 (356.693)	97.3%	○	842.8	842.8	
呉	—	—	—	44.2 (29.585)	43.324 (28.983)	98%	○	44.2	44.2	
長崎	鮑の浦	—	—	—	273.3	268.595	98.2%	○	273.3	273.3
	旭町	—	—	—	58.5	77.335	132.2%	×	58.5	58.5
	計	—	—	—	331.8 (145.3)	345.930 (151.517)	104.3%	×	331.8	331.8
社	—	—	—	1,933.3 (880.1)	1,896.631 (863.706)	98.1%	○	→	→	

備考：CO<sub>2</sub>排出係数 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) は、横浜地区=0.475、高砂地区=0.435、呉地区=0.669、長崎地区=0.438 にて算出

##### (2) 化石燃料 (ガソリン使用量 ℓ)

( ) : 二酸化炭素排出量 (t-CO<sub>2</sub>/年)

横浜	レンタカー	(計測)	1,319.08	○	1,320	669	50.7%	○	1,320	1,320
高砂	社有車	—	279.33	—	320	517	161.6%	×	320	320
長崎	社有車	—	—	—	1,560	1,529	98.0%	○	1,560	1,560
社	—	—	—	—	3,200 (7.424)	2,715 (6.298)	84.8%	○	→	→

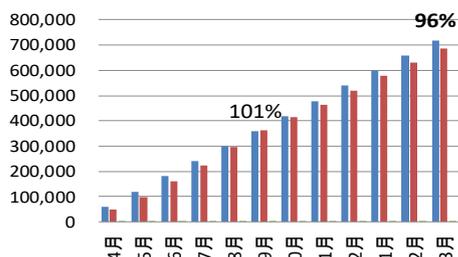
備考：CO<sub>2</sub>排出量は、単位発熱量 34.6GJ/KL として CO<sub>2</sub>排出係数 2.322 kg-CO<sub>2</sub>/ℓ

横浜地区の冷却塔現地工事に於いて、現地までの通勤車両としてレンタカーを使用しており、その使用量を記載しています。

##### (3) エネルギー (合計)

全社 CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	—	—	—	888	870	98%	○	→	→
--	---	---	---	-----	-----	-----	---	---	---

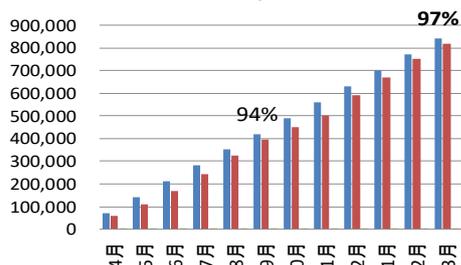
電気使用量(kwh/月)横浜地区



横浜地区では 2016 年度を基準年度として、4 つのサイト（本牧・MM・YBA・横浜日石）毎に目標設定し、維持・削減活動に取り組んでいます。

本牧サイトにおいては、賃貸建物入居の関係で個別メータがない為、建屋全体総量より床延べ面積按分（建屋全体電気使用量×賃貸延床面積按分係数）で算出しています。

電気使用量(kwh/月)高砂地区

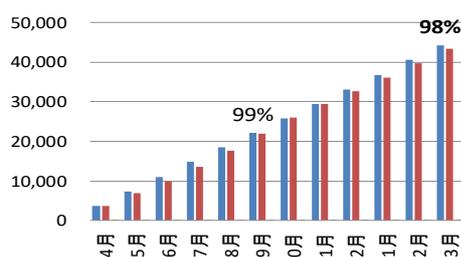


高砂地区では、年度目標を前年度実績値以下としています。

前年度に老朽化した空調設備の新型機交換により、前年比3%の電気量削減ができました。

長年の削減活動によって日常的活動においては飽和点に達しており大きな成果といえます。

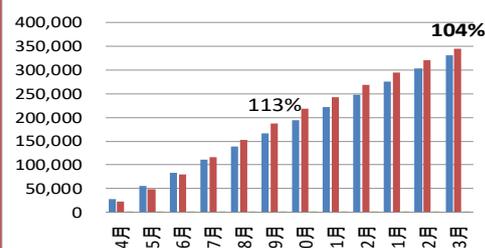
電気使用量(kwh/月)呉地区



呉地区では、年度目標を前年度実績値以下としています。

賃貸建物入居の関係で個別メータがない為、使用電気量の把握ができず、建屋全体総量から在席者の人数比により算出します。98%で目標達成。

電気使用量(kwh/月)長崎地区



長崎地区の各拠点は職場移動等があり、発生実績をそのまま利用することができないため、今年度4月～6月の実績をベースとした年度末目標を設定しました。

結果、業務量の増加影響により104%となりましたが、環境活動の成果として十分評価できる範囲と考えます。

#### （電気使用量、社全体総括）評価：○

電気使用量の削減は、各地区ともに ISO14001/EA21 に基づき従来までの環境活動において十分に、且つ相当量について取り組んできたところであり、削減量としては飽和点にあります。

当社の場合、事務所賃借が基本であり、インフラに影響を及ぼす削減はビルオーナーの同意が必要であり、進捗させるに課題も多い。2019 年度は、環境経営システム全社導入初年度として十分な成果を得たと評価します。全体で 870Mwh となり計画値 98.1% で目標達成となりました。

### 4.6.3 水使用量

(高砂地区以下今年度より実施)

地区	サイト	2018 年度			2019 年度				2020 年度	2021 年度
		計画	実績	評価	計画	実績	実績率	評価	計画 (以下)	計画 (以下)
横浜	本牧※5	(0.34 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	1,395.0 (0482 m <sup>3</sup> / m <sup>2</sup> )	※1	1,417 (0482 m <sup>3</sup> / m <sup>2</sup> )	1,568 (0.507 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	111%	×	1,417	1,471
	MM		291.3	※1	261	263	108%	×	261	261
	横浜日石	—	—	※2	—	—	—	※2	—	—
	YBA	—	—	※2	—	—	—	※2	—	—
	計		1,686.3		1,678	1,830	109%	×	1,678	1,678
高砂	—	—	5,830 (1.09 m <sup>3</sup> / m <sup>2</sup> )	—	5,830 (1.09 m <sup>3</sup> / m <sup>2</sup> )	5,590 (1.054 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	95.9%	○	5,830	5,830
呉	—	—	252.2	※3	280	278.0	99.3%	○	280	280
長崎	鮑の浦	—	—	—	1,400 (0.62 m <sup>3</sup> / m <sup>2</sup> )	1,412 (0.63 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	101%	×	1,400	1,400
	旭町	—	—	※4	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	1,400	1,412	101%	×	1,400	1,400
社	—	—	—	—	9,188	9,110	99.2%	○	→	→

#### 特記事項

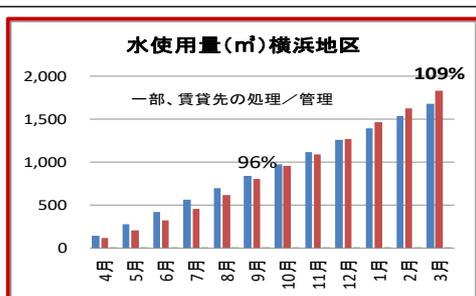
※1：2018年度、横浜地区の本牧サイト及びみなとみらいサイトは、計画時に床面積当たりの水使用量として0.34 m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>で設定したが、建物貸主の面積按分係数変更により、評価は行っていません。

※2：横浜地区の横浜日石及びYBAサイトは、テナント入居ビルの関係で個別メータがない為、数値目標ではなく行動目標により評価します。

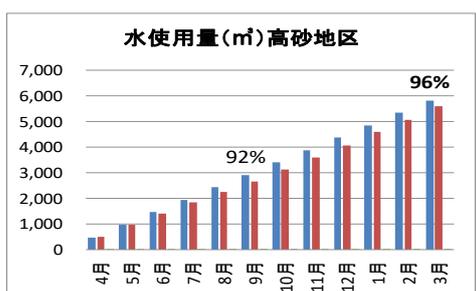
※3：呉地区は建物貸主の建物使用者の人数案分により算出しています。

※4：長崎地区の旭町サイトは、テナント入居ビルの関係で個別メータがない為、数値目標ではなく行動目標により評価します。

※5：横浜地区本牧サイトは、工場内処理施設により再生水を生成しており、トイレ等に再利用している。2019年度で約1,500 m<sup>3</sup>。

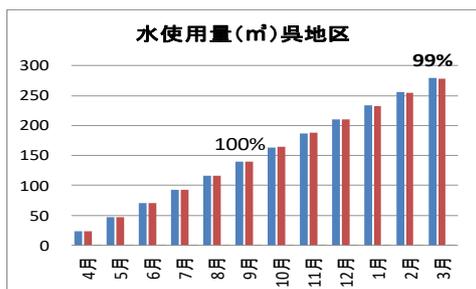


横浜地区の日石ビル／YBA では水使用量の把握ができない状況にあり、本牧・MMサイトは、個別のメータが無い場合、建物全体の水使用量から当社事務所の面積按分により把握しています。今年度は貸主様の面積案分計数の変更（増加）があり、目標値を超過する結果となりました。



高砂地区は、ビル一棟を賃借しており環境数値を拾いやすい環境にあります。

2019 年度目標は、前年度の実績値以下として活動推進しており、結果 4 %の削減を達成しました。



呉地区では、2019 年度目標は、前年度の実績値以下として活動推進しました。

呉地区では、個別メータが無い場合入居建物全体の水使用量から人数比で算出を行っています。



長崎地区では、昨年度 2 拠点に分散配置（飽の浦及び旭町サイト）された関係で前年度の実績がありません。これより今年度の使用量は、年度目標数値を 4 月～6 月実績より仮設定して運用した。

結果として 1%超過という結果ではありますが、本計画値の信憑性を得たと判断します。

#### （水使用量、社全体総括）評価：○

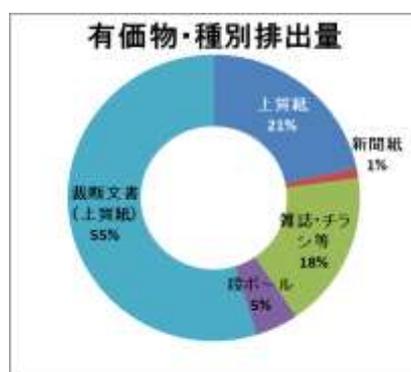
高砂地区以外は個別のメータが無い場合、活動した結果としての水使用量の把握が困難な状況にあるが、各サイトとも数値把握するための工夫を図りながら、削減活動に取り組んでいます。一般的には各地区ともに環境活動に取り組んできた活動であり、マイボトル、マイカップを初めとして、節水活動等により、削減量としては飽和点近傍にあると考えられます。今後は、現状の活動の質を下げることなく、インフラの改善につながる方向でビルオーナーとの交渉と実現に向けて取り組む予定です。2019 年度は全体で 9,110 (m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>) となり目標に対して 99.2%。

#### 4.6.4 廃棄物排出量 (kg)

(高砂地区以下今年度より実施)

地区	種類	2018年度			2019年度				2020年度	2021年度
		計画	実績	評価	計画	実績	実勢率	評価	計画 (以下)	計画 (以下)
横浜	一般廃棄物	8,900	5,735	○	8,900	5,652	64%	○	8,900	8,900
	産業廃棄物	—	72,700	—	—	297,930 ※1	—	—	→	→
高砂	一般廃棄物	—	5,135	—	8,442	8,442	100%	○	8,442	8,442
	産業廃棄物	—	1,160	—	—	7,983 ※1	—	—	—	—
呉	一般廃棄物	—	—	—	来年度から評価対象	(908) 7月より独自計量	—	—	—	—
	産業廃棄物	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長崎	一般廃棄物	—	—	—	11,055	11,055	100%	○	11,055	11,055
	産業廃棄物	—	—	—	—	4,285 ※1	—	—	→	→
社	一般廃棄物	—	—	—	28,397	25,149	89%	○	→	→
	産業廃棄物	—	—	—	—	310,198	—	—	→	→

##### > 横浜地区の場合



※1: 横浜地区廃棄物は、冷却塔建替工事で発生した産業廃棄物が主であり、適正な業者により適正に処理されていることをマニフェスト(M)により確認しています。業務量比例排出量として評価します。

呉地区は全量MHPS工場にて一括処理。

高砂地区、長崎地区共にマニフェストにて確認済。



(廃棄物排出量、社全体総括) 評価: ○

廃棄物の削減は、各地区ともにEA21/ISO14001にもとづき従来までの環境活動において既に取り組んできた内容であり、削減量としては飽和点近傍になります。

その中で当社は、業務の関係から紙使用量が突出して多く、チェック業務の裏紙使用、データの状態でチェック、等々の対策を行ってきましたが、ここ10年は改善効果が得られていません。

<主な活動、取組内容>

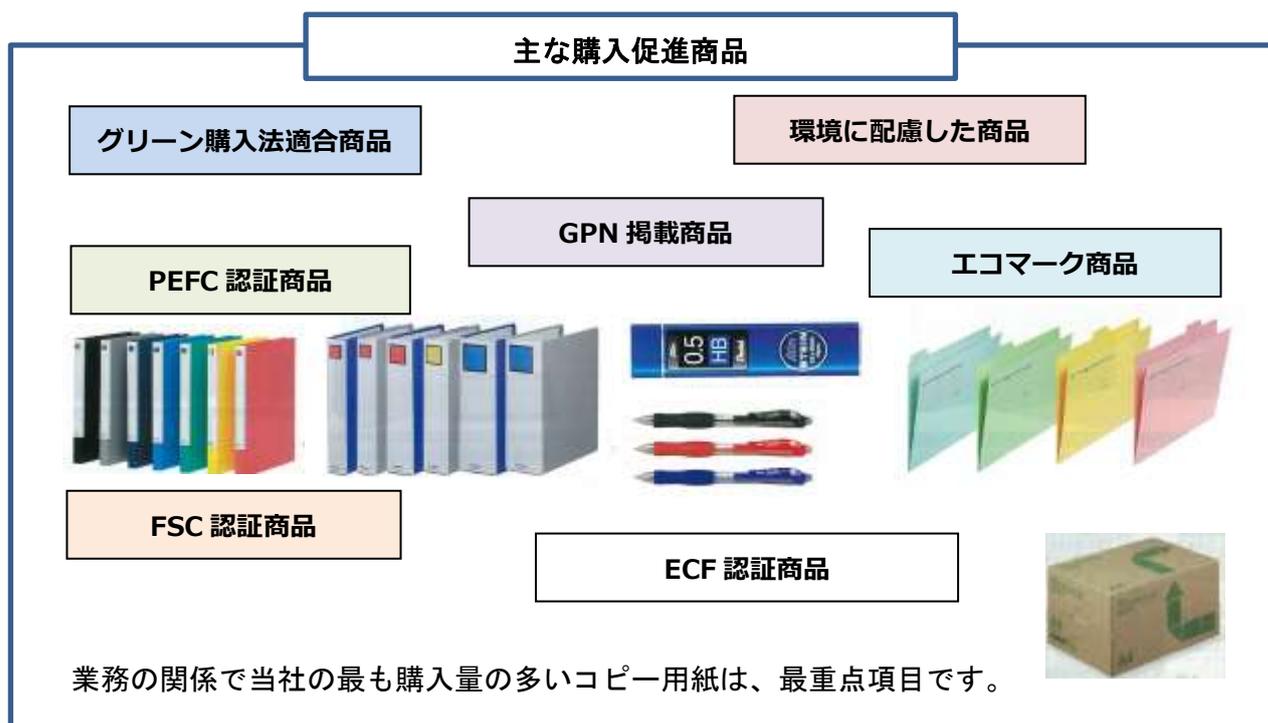
○両面印刷 ○2アップ印刷(用紙1枚に2ページ印刷) ○裏紙印刷(守秘義務の関係から部門内限定) ○プロジェクター、モニター利用による紙配布中止 ○誤印刷撲滅



## 4.7 グリーン調達

### 4.7.1 環境対応商品の購入の実施

オフィス用品の調達は、環境3ラベル（グリーン購入法適合商品、GPNエコ商品、ねっと掲載商品、エコマーク商品）に加え、環境に配慮した商品に対し、環境情報が表示されている社内のオフィス購入システム（J-POINT）を使用し、事務用品等における環境対応商品の購入を促進しています。



GPN グリーン購入ネットワーク  
 FSC 森林管理協議会  
 PEFC 森林管理認証  
 ECF 無塩素漂白パルプ

### 4.7.2 3Rの取組み

3R（Reduce、Reuse、Recycle）に基づき、各部門で活動。



3R (Reduce、Reuse、Recycle)		
<b>Reduce:</b> ゴミを減らす	紙の購入量を減らす為、資料の電子化(PDF等)や裏紙の利用を行い、文房具は再使用することでReduceに繋がっています。	
<b>Reuse:</b> 再使用	不要になったファイルやクリップなどを収集し再使用しています！	
<b>Recycle:</b> 再生利用	作業着もリサイクルされています。	



## 4.8 社内エコポイント活動

### 4.8.1 社内エコポイント制度について

当社では、環境活動のマンネリ化、評価の曖昧さを鑑み、2010年6月より活動の「見える化」を目的に「社内エコポイント制度」を発足し、制度をより広めるツールとして、2010年10月より「環境活動促進システム（Eco Promotion System）」を導入し、社員の環境活動の促進を図っています。

### 4.8.2 2019年度の取組について

環境活動項目は下記項目で実施しました。

**2019年度 エコポイント対象環境活動一覧**  
 活動申請可能回数：(P/月)12回 (Pのみ)1回  
 太枠：重点課題

環境配慮型設計		社内貢献活動					
環境配慮型設計への参加 各部門で提出した環境配慮型設計に申請 600 P/件	環境提案 会社でできる環境に関する提案を行ってください。 200 P/件	エコ検定受験 10,000 P	エコ検定の合格 10,000 P	エコキャップ 100 P/100個	ブルタブ 100 P/100個	マイボトル活動 50 P/月	マイ箸活動 50 P/月
マイカップ 50 P/月		社会貢献活動		うちエコ活動 (いずれも申請は1世帯単位)			
マイカップ 50 P/月	緑ボランティア清掃 200 P/回	地域貢献活動 (環境関連) 500 P/回・日	地域貢献活動 (環境以外) 500 P/月	環境経営レポートを家族に見せる 会社でどんな環境活動をしているか家族に紹介する 400 P	環境経営レポートの感想を聞いてもらう 家族にレポートの感想を書いてもらう 600 P	電球のLED化 100 P/箇所	テレビ等の主電源を切る 50 P/月
エアコンの設定温度 7.5度 設定20度 12.5度 20度 100 P/指定月	保温機能 を止める 50 P/月	こまめに電気を 消す 50 P/月	水の無駄使 いしない 50 P/月	太陽光発電 設備の活用 300 P/月	エコキュート の活用 100 P/月	グリーンカー テンの育成 (電照時) 7.5度 500 P/指定月	エコドライブが 出来ているか Eco Drive 200 P/月
ハイブリット・ 電気自動車の 活用 300 P/月	家庭環境提案 家庭で出来る環境に 関する提案を行って ください 200 P/件	買い物袋を 持ち歩いて利用 50 P/月	環境家計簿 (電気・水道・ガス・物販) 600 P/1項目	Let's Eco Action!			

赤枠：重点項目／赤表題

### 4.8.3 全社運用に向けてのシステム改修

下記項目について年度前期で追加・改修を図りました。(担当：山口夏織)

- ・ 差戻し時の一時保存ボックス復元機能
- ・ 集計グラフ自動作成機能拡張
- ・ 承認状況の一覧表示
- ・ 承認ルート自動設定機能
- ・ 備考入力必須条件の追加
- ・ 個人獲得ポイントのCO2排出量削減のグラフ化機能

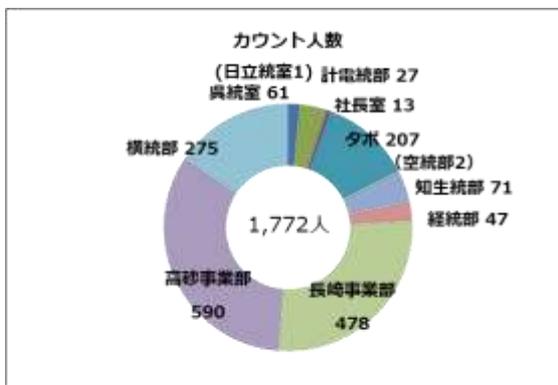
### 4.8.4 2019年度エコポイント活動の結果

4.8.4.1 活動対象期間 2019年1月1日から12月31日まで

4.8.4.2 登録機関 2019年12月1日から2020年1月31日

4.8.4.3 対象社員数 1,772名

(担当：杉林正教)

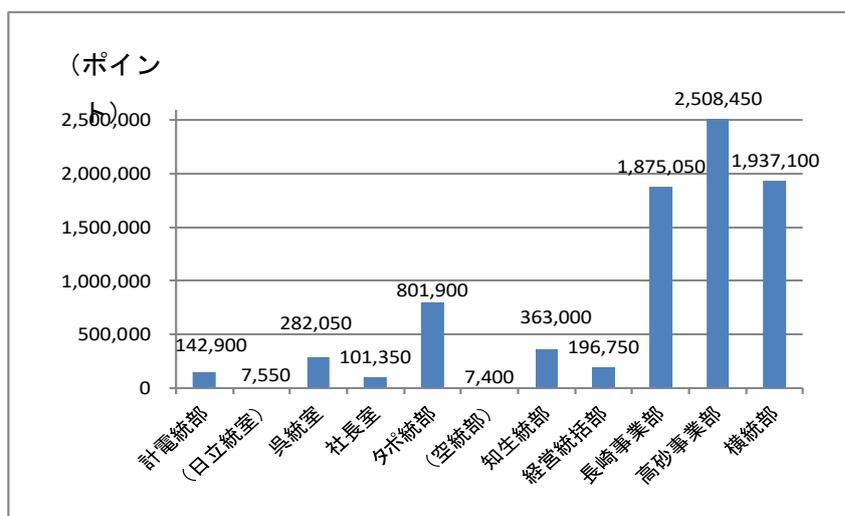


#### 4.8.4.4 活動結果

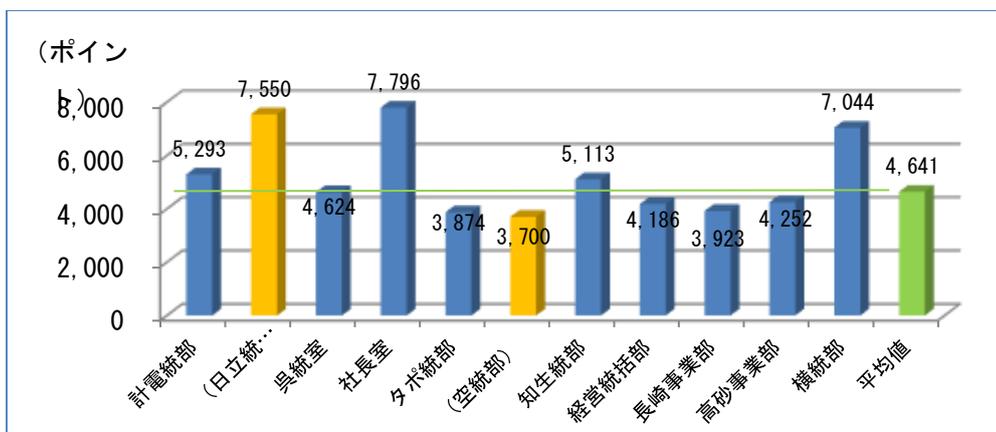
(1) 地区(部門)別参加率



(2) 地区(部門)別申請ポイント

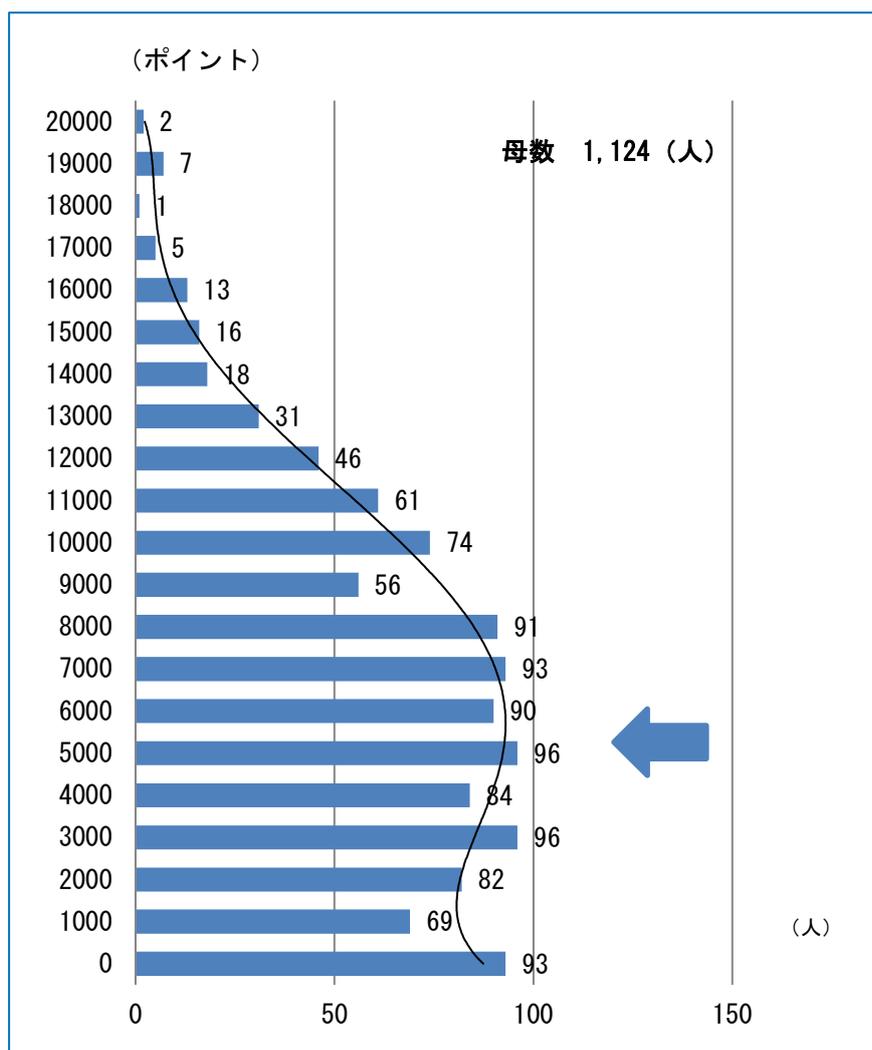


(3) 地区（部門）別平均ポイント



部門の累積ポイントを在籍人数で除した平均値。一位社長室！！

(4) 得点ポイント別人数分布



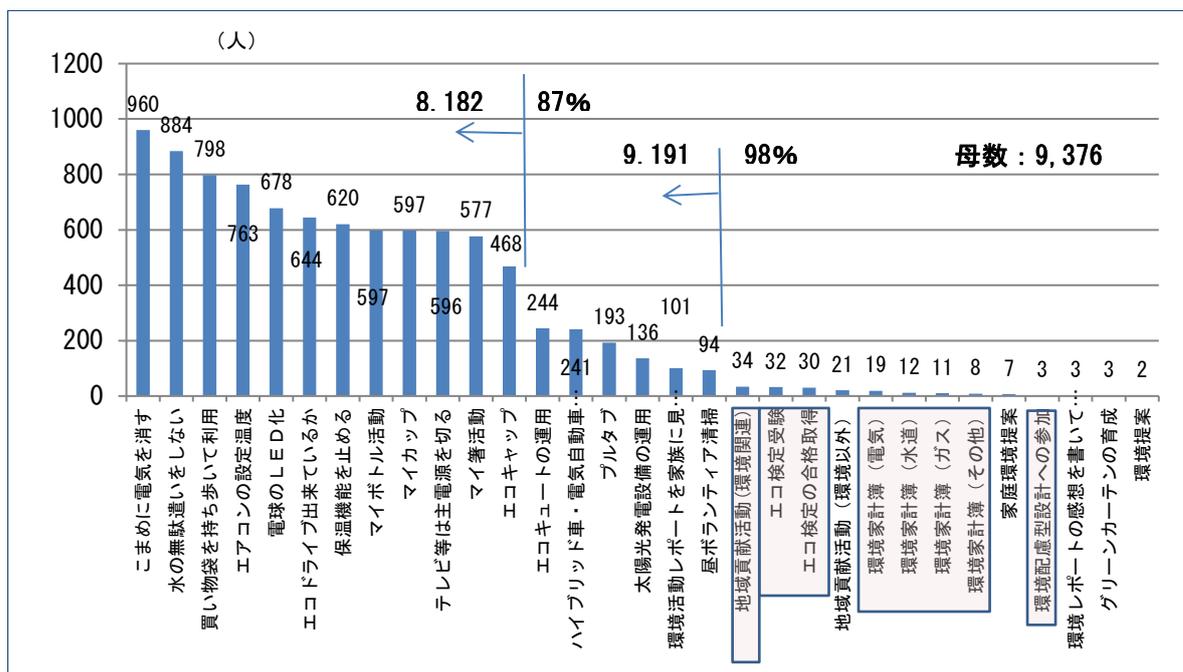
今回より、高砂地区、長崎地区、呉地区がエコポイント活動への新規参加となりました。幅広い広報を行った結果、参加率は、1,124/1,772 ≒ 63%となりました。

左記個人獲得ポイントのランク別人数を集計して3次近似曲線としてプロットしました。

5,000ポイント付近で極大となっており、当初予想(3,000ポイント)を大幅に上振れました。

このことより、高砂、長崎を初め今回初めて本システムを利用する地区でも、参加いただけた方は、環境活動に積極的に取り組んでおられることが想定されます。

(5) 活動別参加人数



重要な活動(上記ハッチング項目)が総て98%圏外となっており、益々の対応強化が必要と考えられます。来年度は、期初計画の段から強く勧奨する予定です。

(6) 環境活動から拠出した寄付先一覧(2019年度)

社員の環境活動により積立てたポイント累計から以下寄付を実施しました。

社内エコポイントによる2019年度寄付先一覧				
	名称	寄付先	地区	手続
①	かながわ森林再生パートナー	神奈川県	(本社) 横浜	横浜
②	法人会員	世界自然保護基金(WWF)	(本社) 横浜	横浜
③	横浜市環境保全基金	横浜市	横浜	横浜
④	コウノトリ野生復帰プロジェクト	兵庫県教育委員会	高砂	高砂
⑤	緑の募金	長崎県緑化推進協会	長崎	長崎
⑥	森と海を育む企業の森づくり	長崎県森林ボランティアセンター	長崎	長崎
⑦	緑の募金	茨城県緑化推進機構	日立	横浜
⑧	平成30年7月豪雨災害支援金	呉市総務部	呉	横浜
⑨	緑の募金	広島県みどり推進機構	呉	横浜

## (7) エコポイント活動によるCO2排出削減量

項番	活動項目	ポイント	ポイント単位	CO2	CO2単位	活動量	合計 (kg)
①	環境配慮型設計への参加	600	/回	個別	—	3	—
②	環境提案	200	/回	個別	—	2	—
⑥	環境社会検定 (エコ) 受験	10,000	/回	—	—	32	—
⑦	環境社会検定 (エコ) 合格	10,000	/合格	1,000	kg/合格	30	30,000
⑧	エコキャップ	100	P/100個	0.78	kg/100個	468	365
⑳	プルタブ	100	P/100個	0.78	kg/100個	193	150
③	マイボトル	50	P/月	1.4	kg/月	597	835
④	マイ箸	50	P/月	0.07	kg/月	577	40
⑤	マイカップ	50	P/月	1.4	kg/月	597	835
⑨	昼のボランティア清掃	200	P/回	0.71	kg/回	94	66
⑩	地域貢献活動 (環境関連)	500	P/回・日	個別	—	34	—
⑪	地域貢献活動 (環境関連以外)	500	P/回・月	個別	—	21	—
⑫	環境経営レポートを家族に見せる	400	P/回・年	100	kg/年	101	10,100
⑬	環境活動レポートの感想を記載	600	P/回・年	200	kg/年	3	600
⑭	電球のLED化	100	P/箇所	13.68	kg/箇所	678	9,275
⑮	テレビ等の主電源を切る	50	P/月	7.68	kg/月	596	4,577
⑯	エアコンの設定温度	100	P/指定月	8.1	kg/指定月	763	6,180
⑰	保温機能を止める	50	P/月	10.5	kg/月	620	6,510
⑱	小まめに電気を消す	50	P/月	1.2	kg/月	960	1,152
⑲	水の無駄使いをしない	50	P/月	3.6	kg/月	884	3,182
㉑	太陽光発電設備の運用	300	P/月	173	kg/月	136	23,528
㉒	エコキュート対象設備の運用	100	P/月	34	kg/月	244	8,296
㉓	グリーンカーテンの育成 (夏季)	500	P/指定月	10.8	kg/指定月	3	32
㉔	エコドライブ	200	P/月	6.4	kg/月	644	4,121
㉕	ハイブリッド・電気自動車	300	P/月	9.4	kg/月	241	2,265
㉖	家庭環境提案	200	P/件	個別	kg/件	7	—
㉗	買物袋持ち歩きと利用	50	P/月	0.6	kg/月	798	478
㉘	環境家計簿	600	P/項目	個別	kg/項目	50	—
<b>総 合 計</b>							<b>112,587</b>

注：対象活動及び文献等で表示される概算値をベースとして活動量で算定しました。

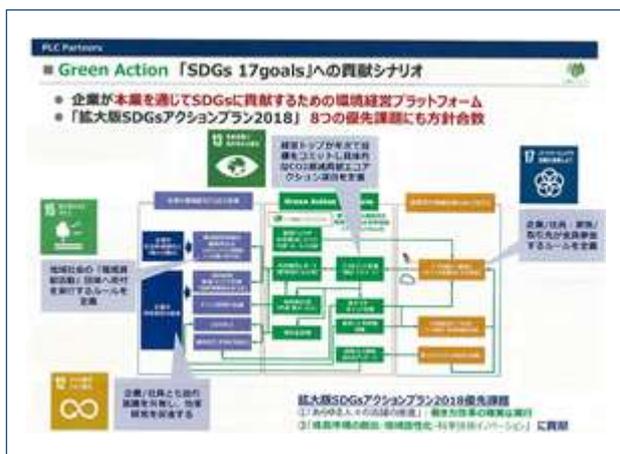
一部、想定値によるものを含みます。

項番は、(MHPSE2019環境経営レポート) **7.3 環境活動とSDGsの対応と評価** の項番と対応しています。

(8) 「環境活動促進システム」の市場向製品化とサプライチェーン

環境活動促進システムをエコアクション21の導入ツールとして、「Green Action」という商品名でPLCパートナーズ株式会社（PLCP）（代表取締役：人見正徳、本社：東京都品川区）から一般販売されます。当社としても積極的に支援してまいります。

（担当：杉林正教）



当社事務局及びPLCP 両社の打合せの様子

SDGsの組込評価図

( 表 )



( 裏 )



「Green Action」のリーフレット

## 4.9 環境配慮型設計の取組



当社は、グループ事業会社の受注製品に対して技術サービスを提供する会社です。

環境配慮することによって生じる仕様変更、詳細設計への影響範囲を考える場合、プラント等の複雑に絡み合う要素を一つずつ分解して構築し直す所作が必要になります。場合によっては大がかりな試験研究等により検証をしなければならないケースもあり、早い段階での知財価値の認識とニーズの掘り起こしを行い、一步一步進めていくことが必要となります。昨今は LCM を考慮したサプライチェーンの構築が課題として上げられます。 注 LCM : Life Cycle Management



ボイラプラント



蒸気タービン 3次元鳥瞰図

### 4.9.1 横浜地区（取纏：田籠博）

横浜統括部鉄構設計部では、架台部に木材等を使用して騒音及び振動低減を図る冷却塔を製造してきましたが、昨今は、LCM の観点から鋼材を使用しての材点数の削減、緩衝材採用による高製品化によりコスト削減を実施しました。

知的生産統括部では「環境活動促進システム」のシステム開発を実施。また多くのシュミレーションシステムの提供により環境負荷を低減した工事の実現を図っています。

### 4.9.2 高砂地区（取纏：立岩将資）

三菱日立パワーシステムズからの請負設計を中心に技術提供を行っており、各製品について省資源・省エネルギー・排出物の低減・汚染の予防に配慮した設計を実施し、ライフサイクルの視点で環境負荷を軽減することのできる技術情報提供及び製品を提供しています。

### 4.9.3 呉地区（取纏：山村直樹）

三菱日立パワーシステムズからの請負設計を中心に技術提供を行っており、各製品について当社環境方針、技術に則って「三菱重工の環境製品」を生み出しています。

### 4.9.4 長崎地区（取纏：藤原栄次）

三菱日立パワーシステムズからの請負設計を中心に技術提供を行っており、各製品について当社環境方針、技術に則って「三菱重工の環境製品」を生み出しています。また「酸素の強制供給による燃焼システム」を独自に提供しており、バイオマス発電等の燃焼効率化に貢献しています。

## 4.10 かながわ SDGs パートナーへの参画



本社活動として、第三回の神奈川県主催「かながわ SDGs パートナー」への登録申請を行い、年度末登録許可をいただきました。2020 年度活動として取込む予定です。（担当：杉林正教）

## 4.11 内部監査

定例内部監査を当年度実績フォローを中心に地区毎に実施しました。

### 4.11.1 横浜地区

横浜地区 EMS 事務局から監査人を出し実施しました。昨年度同様、本社に協力して率先活動を推進します。

（担当：田籠博）

2020 年 2 月 18 日（月）～2 月 19 日（火）



書類審査風景

### 4.11.2 高砂地区

高砂地区 EMS 事務局が中心となり、地区毎に活動状況のアンケートを実施して疑問点のある部門に対して個別にヒアリングを実施して取り纏めました。ISO14001 運用の経験を生かして展開を図っています。（担当：立岩将資）2020 年 02 月 4 日（月）～2 月 28 日（木）

### 4.11.3 呉地区

呉地区 EMS 事務局で監査を実施しました。外部とのコミュニケーション（森林活動中心）に積極的に取り組んでいく予定です。（担当：山村直樹）2020 年 02 月 10 日（月）

### 4.11.4 長崎地区

長崎地区 EMS 事務局の立会のもと、飽の浦／旭町の 2 サイトをクロス監査の方法で実施しました。広報を含めて外部とのコミュニケーションに積極的に取り組みます。（担当：藤原栄次）2020 年 2 月 25 日（火）



書類審査風景 1



書類審査風景 2

## 5. 社会貢献活動

### 5.1 山下公園ボランティア清掃



MHPS エンジニアリング労働組合横浜支部青年委員会有志による活動 (担当：労働組合横浜支部) 2019年4月20日(土)



集合写真



活動状況

### 5.2 ウォーク・ザ・ワールド 2019 (WFP) 参加



当社横浜地区中心に 100 名以上の参加 (担当：CSR 推進室) 2019年5月12日(日)



集合写真

WFP 主催  
横浜主要な観光地を皆で歩き、参加費用の一部が世界の食料支援に利用される。2019 年は、本イベント全体で 5,000 人の参加があり、4,700 (千円) の寄付が実現した。

### 5.3 横浜地区ボランティア清掃



活動風景

◎本牧サイト 2019年6月12日  
土木事務所が「投棄禁止」看板を設置するほどに通行する業務車輛からの投棄ゴミが多い状況です。弊社重役の方々も率先してゴミ拾いに参加していただきました。

◎YBA サイト 2019年6月4日  
横浜地区 環境プラント部 11名。

## 5.4 長崎地区ボランティア清掃

(取纏：藤原栄次)



### (1) 日常活動

#### ◎旭町バス停付近

- ① サービス推進部 2019年4月23日(火)
- ② 機械設計部 2019年5月28日(火)
- ③ タービン・ポンプ技術統括部 2019年6月25日(火)
- ④ サービス推進部 2019年7月30日(火)



旭町バス停周辺の清掃

#### ◎長崎工場前バス停付近

- ① ボイラ設計部 2019年4月23日(火)
- ② 計装電気設計部 2019年5月28日(火)
- ③ プラント機器設計部 2019年6月25日(火)
- ④ 空間設計部 2019年7月31日(水)



MHPS 長崎工場前バス停周辺の清掃

#### ◎水の浦公園

- ・MHPSエンジニアリング労働組合長崎支部青年部  
2019年7月12日(金)

### (2) MHPSエンジニアリング労働組合長崎支部青年部の活動

#### ◎勤務地で2コースを設定

2019年6月28日(金) 22名



集合写真

#### ◎水辺の森公園

2020年02月1日(金) 16名



集合写真

### 5.5 高砂地区通勤路ボランティア清掃



(取纏：立岩将資)

2019年7月5日(金) ◎通勤最寄り駅(荒井駅)―会社 17名

### 5.6 呉地区ボランティア清掃



(取纏：山村直樹)

(1) 2019年6月29日(土) ◎広地区クリーンウオーク 2名

(2) 2019年9月7日(土) ◎グリーンピア瀬戸内プール周辺/海水浴場清掃作業 2名

### 5.7 横浜地区エコキャップ収集活動

現在、NPO 法人エコキャップ推進協会に搬入、協力しています。  
本協会のエコキャップ運動の主目的は以下4点となっています。



- (ア) リサイクルの促進
- (イ) CO2の削減
- (ウ) 売却益で発展途上国の医療支援
- (エ) 障害者・高齢者雇用促進



(取纏：杉林正教) 3月13日(金) 27.3kg 累計 913kg



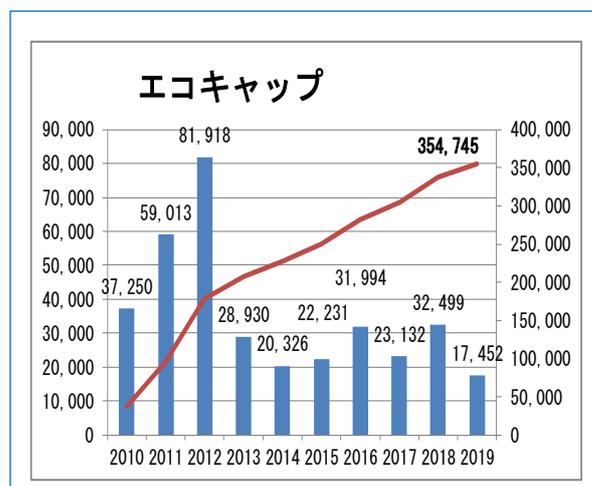
注：2014年エコキャップ換金利用に関する不正疑惑があり、翌年度からの収集に影響したが、地道な活動を継続している。

## 5.8 長崎地区エコキャップ収集活動

(取纏：藤原栄次)

長崎地区は、三菱重工との共同収集と  
なっています。

工場指定場所への納入（当社収集分）



## 5.9 長崎地区プルタブ収集活動

(取纏：藤原栄次)

毎年度、社会福祉法人長崎市社会福祉協議会に納入しています。（当社収集分）



本協議会においては、プルタブ 500kg に対して車椅子 1 台を福祉団体に寄贈しています。

## 6. 生物多様性に関する取組

### 6.1 WWF を通じた間接的貢献



気候変動、地球温暖化の視点から生物多様性を初めとした自然保護、環境保全活動を率先している WWF ジャパン（公益財団法人世界自然保護基金ジャパン）の法人会員に登録することによって、間接的な貢献を意図しています。

一般的な環境情報についての発信力もあり、メールマガジン等の情報媒体について積極的に活用させていただいています。

（窓口：杉林正教）



WWF ホームページから転載

### 6.2 山のグラウンドワーク森林整備ボランティア（呉地区）

（取纏：山村直樹）



（1）2019年9月10日（火） 3名

呉市近郊の野呂山にて「ひろしま山の日」の森林保全活動に参加



（2）2019年10月19日（土） 2名

「西条・山と水の環境機構」についての講習会参加

### 6.3 やどりきの森 (横浜地区「森林のつどい」への参加)



2019年8月3日(土)

経営統括部人事・総務部勤労G安全・環境チーム、横浜地区EMS事務局、環境プラント部有志で参加(14名)(取纏:藤井恵輔)

水源林トレッキングや森林交流会を通して「水源の森林づくり」への理解を深めるイベントです。当日は、神奈川県森林インストラクターの案内で、涼しい水源林の散策や河原での水性生物観察、木陰でのハンモック等の森林浴、木工クラフト製作などの紹介が行われました。また、森林再生パートナーの紹介、一部企業出展が行われました。



出席者集合写真

＜弊社エコポイント活動の紹介パネル



森林再生に関する県の広報パネル

### 6.4 高砂地区植樹活動



(取纏:立岩将資)

植樹活動に賛同いただいた方から1口100円/月の募金をいただき、集まった資金を原資として、市内を流れる鹿島川沿いに桜5本、曾根松原公園に松5本を植樹しました。(賛同社員 201人)

2020年03月23日(土)



植樹風景

## 6.5 MHPs エンジニアリングの森



2018年度末、本社主導で神奈川県内の森林保護、水源地帯の保全を目的とした神奈川県森林再生パートナーとして登録支援を宣言しました。丹沢湖周辺 10ha の指定土地に対して「MHPs エンジニアリングの森」と命名。（取纏：藤井恵輔）

カーボンオフセット相当量：247t/CO<sub>2</sub>

また、支援に対して神奈川県知事より感謝状を贈呈いただきました。2019年7月1日（月）



「MHPs エンジニアリングの森」の位置



於：神奈川県知事室



### <<< 看板の建立 >>>

2020年1月、神奈川県ご担当者同席のもと下記看板を建立しました。

場所：神奈川県やどりき水源林の森（神奈川県足柄上郡松田町寄地内）



社名入り看板（2020.1）



7.2 2020 年度実行計画書

2020(H32)年度 実行計画書		フォームA		経営統括部 人事・総務部														
業務	環境経営部門:全社対象(エコアクション21)(サプライチェーン)	実施期間	2020年4月~2021年3月															
社品質目標・重点課題		品質目標・重点課題		対象部門とメンバー														
<b>品質方針</b> 社内環境経営の拡大と周辺環境への拡大 SDGs適用評価 SDG4/SDG8/SDG9/SDG12/SDG13/SDG17  <b>重点課題</b> PS-1 安全で快適な職場と健全な心づくり PS-2 全員参加で取り組む“働き方改革” PS-3 サービス事業の拡大 PS-4 新事業と外販への挑戦		<b>【テーマ】</b> 環境サプライチェーンの構築に向けた環境活動の展開 <b>【目的】</b> 昨年度、横浜地区から高砂地区、長崎地区を含めたEA21の全社認証を取得した。これにより三菱重工、MHP&Sとのより深化させたサプライチェーンに繋げていける。今年度は、当社周辺事業者を含めた関連企業とのサプライチェーン構築に向けた模索と展開を段階的に実現させ、より強固な環境経営体制を構築したい。 <b>【役割(ミッション)】</b> EA21認証範囲を環境サプライチェーン全般に展開する及び環境活動の和輪理の拡大 <b>【重点課題】</b> ・EA21の2017年度ガイドライン適合 ・日立地区/広島地区組込の検討及び実施 ・関連企業とのサプライチェーン構築計画(その1) ・「環境活動促進システム(エコポイント)」のアウトソーシング		1.リーダー：経営統括部 人事・総務部 安・環G 杉林主席 2.メンバー：社長室 郡司取締役 経営統括部 人事・総務部 安・環G 伏見G長 経営統括部 人事・総務部 安・環G 竹部主任 横浜地区EMS事務局 本社支援(環境レポート/外部審査/システム改修他) 高砂地区EMS事務局 長崎地区EMS事務局 島地区EMS事務局 日立地区/広島地区EMS事務局(今年度登録検討するが人員によっては環境体制として別途検討)		立案 #1フォロー 6月 #2フォロー 9月 #3フォロー 12月 #4フォロー 年度末	経営統括部長 人事・総務部長 安全・環境G 担当											
WG品質目標を達成するための施策のテーマ	テーマの期限で実現する目標(姿・状態)	施策の作業	施策の作業によって実現する成果	担当	関連部門資源	実績												評価
	テーマの期限/KPI					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
A項目 ・一般活動(日程)	・2020年環境マネジメント維持管理	①教育・体験の充実(外部講習の積極的活用) ②環境経営レポートの作成 ③外部審査(中間審査) ④外部評価 ⑤内部監査	・「和」「理」「輪」	郡司/鈴木/杉林 杉林 田窪/各地区事務局長	各地区EMS事務局 横浜地区EMS事務局より支援	4月: e-Learning 5月: 7/21 6月: 申請 7月: 7/21 8月: 申請 9月: 申請 10月: 申請 11月: 申請 12月: 申請 1月: 申請 2月: 申請 3月: 申請	・「森林のつどい」神奈川県(仮)申込済→中止 ・e-Learning 100%実施 ・7/20経統部上覧→返却 ・中間審査申込 ・9月 3/4/29横浜 11長崎 10高砂 25広島 ・「地区毎に実施 ・内部監査に併せて「日立地区」「観音サイト」の認証拡大準備会議 ・社標準見直し(田窪)	100	・逐次外部講習等を盛り込む ・アウトソーシングを検討 → 中止 ・杉林審査人様調整 → 調整済 ・環境コミュニケーション大賞・環境人づくり企業大賞・MHP&S Innovation・気候変動アクション環境大臣表彰									
	社品質目標 PS-1 PS-2	2021年3月末/環境経営システムの定着	①ガイドライン2017年度版適合調査 ②ガイドライン2017年度版ガイダンス ③日立地区/広島地区組入れ評価 ・審査人様/かながわ地域事務局	・EA21認証更新	杉林	各地区EMS事務局	4月: 5/15 5月: 7/1 6月: 8/6 7月: 9/9 8月: 10/6 9月: 7/31 10月: 社#1フォロー	・環境の社標準・環境経営マニュアル(PLC-G-19-01)においては、既に2017年度版ガイダンスのポイントについて組込み判定済である。 ・前年度「環境経営レポート」においても可能な範囲で2017年度版ガイダンスを盛り込み取り纏めており、本年においては中間審査に併せて適合申請が取れるかがポイントである。 ・審査人様との打合せにより、日立地区、広島・島地区観音サイトの活動状況を鑑み、認証拡大については来年度に延期となった。	-	①「広島・島地区」の観音サイトは「準備中」で対応。 ②「日立地区」は前年度同様「準備中」で対応。 ・来年度認証に向けた準備								
C項目 ・当社関連企業との環境サプライチェーン構築計画(その1)	・EA21適合範囲拡大(社外)	①企業方針に合わせた環境方針取りまとめ ②各地区調達との調整 ③パートナー企業への説明(案内状/説明会) ④パートナー企業環境経営計画について	・環境に関するサプライチェーン構築に向けた目処を立てる	田窪(杉林)	各地区EMS事務局 各地区の調達担当	4月: 7/8 5月: 7/28 6月: 10/16 7月: 7/8 8月: 7/28 9月: 10/16 10月: 7/8 11月: 7/28 12月: 10/16 1月: 7/8 2月: 7/28 3月: 10/16	・PLCパートナーズ株式会社は、2020年度エコアクション21(EA21)の認証取得。 ・PLCパートナーズ株式会社とは、2020年度「環境活動促進システム」に関して特許利用に関する協定契約。 ・PLC戸田さんが10月末で退職。	100	・新型コロナウイルスの影響でPLCパートナーズ様(中国取引先)との打合せが4ヶ月、遅延。今年度の工程については、年度内検討継続。7/14打合せ再開。 ・金融で折り返さない際は早めの計画変更。 ・「EcoPS」にCO2削減値追加。これを「GreenAction」にも追加予定。 ・「EcoPS」今年度分改修項目決定。シスEG依頼。									
	社品質目標 PS-3 PS-4	年度末/関連企業の同意・実施可能件数	①「EcoPS」の調査(前年度継続) ②「GreenAction」の調査・適合判定 ③採用への動線検討 ④改修計画	・システム運営、管理に関する負担軽減 ・サプライチェーンモデルケースの構築	杉林	横浜地区EMS事務局 PLCパートナーズ 知生統部IC TG	4月: 7/8 5月: 7/28 6月: 10/16 7月: 7/8 8月: 7/28 9月: 10/16 10月: 7/8 11月: 7/28 12月: 10/16 1月: 7/8 2月: 7/28 3月: 10/16	・PLCパートナーズ株式会社は、2020年度エコアクション21(EA21)の認証取得。 ・PLCパートナーズ株式会社とは、2020年度「環境活動促進システム」に関して特許利用に関する協定契約。 ・PLC戸田さんが10月末で退職。	100	・新型コロナウイルスの影響でPLCパートナーズ様(中国取引先)との打合せが4ヶ月、遅延。今年度の工程については、年度内検討継続。7/14打合せ再開。 ・金融で折り返さない際は早めの計画変更。 ・「EcoPS」にCO2削減値追加。これを「GreenAction」にも追加予定。 ・「EcoPS」今年度分改修項目決定。シスEG依頼。								
立案時 部長評価	#1フォロー 品質目標の達成度 部長評価	#2フォロー 品質目標の達成度 部長評価	#3フォロー 品質目標の達成度 部長評価	#4フォロー 品質目標の達成度 部長評価	「三菱重工環境Gop」の指導から昨年度は、MH1とのサプライチェーン構築を目指した環境経営システムを「EA21」に全社対象に認証取得することができた。今年度は「和」「理」「輪」を広げて関連企業とのサプライチェーン構築に向けた準備に入る。特に体制、人員の関係から環境活動促進システム(エコポイントシステム)のアウトソーシングについて展開を拡げる計画である。													
立案時 統括部長評価	#1フォロー 統括部長評価	#2フォロー 統括部長評価	#3フォロー 統括部長評価	#4フォロー 統括部長評価														



## 8. 環境関連法規制の遵守状況及び違反、訴訟等の有無、等

### 8.1 適用となる主な環境関連法規制等の遵守状況確認

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境法規制等は適正に遵守されています。

法規制等の名称	適用される要求事項	該当する項目	遵守評価
循環型社会形成推進基本法	設計におけるリサイクル促進	環境配慮型設計	○
資源有効利用促進法	再生資源の利用	鉄骨類	○
廃棄物処理法	マニフェスト保管及び届出	産業廃棄物	○
PRTR法	現地にて適正保管及び使用量の把握	特定化学物質（トルエン等）	○ ※1
地球温暖化対策法	温室効果ガスの排出抑制措置	電気使用量の削減	○
労働安全衛生法	安全衛生管理及び教育	現地工事	○
家電リサイクル法	使用状況の把握及び管理	エアコン・冷蔵庫	○
グリーン購入法	社内周知による購入促進	文房具・再生紙	○
建設資材リサイクル法	現地にて発生量の把握及び届出	産業廃棄物	○
有機溶剤中毒予防規制	災害事故速報の情報の共有	情報の発信	○
ダイオキシン類ばく露防止対策	特別教育の実施	現場前の社内教育	○

※1：2019年度のPRTR制度対象物質の使用量の状況は、冷却塔現地工事の充填体の接着剤としてエスダインを使用しており、これにトルエンが含有されています。トルエン使用量としては99kgであり報告義務規定範囲外となります。

### 8.2 外部からの環境に関する苦情等の受付結果

環境に関する外部からの苦情、要望は過去5年間に亘ってありませんでした。関連企業の方、社員ご家族の方から「活動応援する」旨の複数の激励をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

### 8.3 違反・訴訟等

環境に関する違反、訴訟は2015年10月会社発足時以降ございません。

## 8.4 緊急事態の想定とその内容

現在、会社環境経営は、経営統括部管轄であり、対応部門は人事・総務部 安全・環境グループ安全担当から日常的重点フォローを実施しています。

社標準 PE-G-26-1 ～ 37 を基準として各種実施要項、基準として制定しており、運用要項、対応マニュアル等についても併せて社標準として全社徹底を図っており、制定内容は、社ポータルサイトで公示すると共に、職制にて運用・管理を励行しています。

緊急事態となる環境事故の想定は、地震／津波／台風／大雨／大雪／火災／等の災害同レベルでの管理としており、その際の連絡体制も同様であります。

また、全社員（社員・協力社員）対象に「安否確認サービス」を実施しており、緊急事態の情報収集に活用しています。

### （１）事務所

各地区各サイト別に非常事態想定状況による避難、及び安全に関する対応マニュアル（社標準／事業部標準等）を要しており、毎年度その実施手順に従って避難訓練等を実施しています。

### （２）現地

冷却塔、VPSA（酸素発生装置）建設工事等は、一般企業事業用地内の建設工事であり、用地内企業の安全規定に則り、当社規定を照合・精査して運用を図っています。



安否確認サービス



横浜地区 YBA サイト避難訓練の様子



## 9. 代表者による全体評価と見直し結果



当社は、「社内エコポイント制度」を通じて環境活動の「見える化」を図ってきましたが、その状況をここ数年の枠で評価すると、社員の自発的な環境意識が着実に向上し、活動に広がりが出てきていると見ることができます。

特に昨年度末には、寄付・支援先として「森林再生パートナー」に登録することができ、2019年度7月には神奈川県知事より感謝状を頂く栄誉にも恵まれました。

当社の環境経営にとって2019年度は変革の年となりました。従来まで事業部門により「ISO14001」、「エコアクション21」等の異なる環境経営システム下での活動、また、親会社の環境経営システムの枠組みで活動していた部門と当該親会社の環境システムからは独立した部門としての活動と混在していましたが、今年度これら全てをリセットして「エコアクション21」を基盤に、当社独自の環境経営システムとして全社展開を図ることにより、環境経営に向けた指揮系統を一本化しました。

また、下期にはこれを受けてここ数年の課題であった「社内エコポイント制度」を全社に展開することができました。今後、環境活動のコミュニケーション手段として、この制度を活用すると共に着実に実施することで、当社独自の環境経営体制を構築すると共に外部評価を真摯に受け止めて展開することが重要です。

2020年度は新型コロナウイルスの収束結果を受けて、環境に対する取り組み方を改めなければならないケースも出てくる可能性があります。SDGsを活用することにより、三菱重工グループ会社、協力企業を含めた弾力あるサプライチェーンを構築し「和・輪・環」の実現に向けて活動を推進して頂きたい。

2020年5月18日

取締役  
環境経営責任者  
郡司 登

(memo)

発行日 2020年 10月 8日 (2.2版)  
(初版：2020年7月10日 MHPSEエンジニアリング発行)

発行者 〒231-8715  
横浜市中区錦町12番地  
MHIパワーエンジニアリング株式会社  
経営統括部 和栗誠一

URL <http://eng.power.mhi.com/>

ご意見・お問い合わせは、下記までメールでお願いします。

環境担当： 安全・環境グループ 杉林正教

E-mail: [masanori.sugibayashi.7d@mhi.com](mailto:masanori.sugibayashi.7d@mhi.com)

